

Horizon 7 での Cloud Pod アーキテクチャの管理

変更日：2018 年 1 月 4 日
VMware Horizon 7 7.4



vmware®

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) でご確認ください。このドキュメントに関するご意見およびご感想は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエルムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2019 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

Horizon 7 での Cloud Pod アーキテクチャ の管理 6

1 Cloud Pod アーキテクチャ について 7

- Cloud Pod アーキテクチャ の概要 7
 - グローバル データ レイヤのキー データの共有 8
 - ポッド間でのメッセージの送信 8
- Cloud Pod アーキテクチャ 環境の構成と管理 8
- Cloud Pod アーキテクチャ の制限 8

2 Cloud Pod アーキテクチャ トポロジの設計 9

- Cloud Pod アーキテクチャ サイトの作成 9
- ポッド フェデレーションでのユーザーおよびグループの資格付与 10
- ポッド フェデレーションでのデスクトップおよびアプリケーションの検索と割り当て 11
 - 範囲ポリシーの概要 11
 - ユーザーごとの複数セッション ポリシーについて 11
 - ホーム サイトの使用 11
- 非認証ユーザーの考慮事項 12
- グローバル資格の例 13
- グローバル資格に対する接続サーバ制限の実装 14
 - タグ一致 14
 - 接続サーバ制限の要件と制限 14
 - 接続サーバの制限の例 15
- グローバル資格に対するクライアント制限の実装 16
- グローバル資格でセッション共同作業を有効にする 17
- Workspace ONE モードの考慮事項 17
- バージョン混在環境の考慮事項 17
- Cloud Pod アーキテクチャ トポロジの制限 18
- Cloud Pod アーキテクチャ ポート要件 18
- Cloud Pod アーキテクチャ トポロジに関するセキュリティ考慮事項 18

3 Cloud Pod アーキテクチャ 環境の設定 20

- Cloud Pod アーキテクチャ 機能の初期化 20
- ポッドをポッド フェデレーションに参加させる 21
- 接続サーバ インスタンスへのタグの割り当て 22
- グローバル資格の Windows スタート メニュー ショートカットの設定 23
- グローバル資格の作成と構成 24
- グローバル資格へのプールの追加 28
- サイトの作成と構成 29

ユーザーまたはグループへのホーム サイトの割り当て	30
ホーム サイト上書きの作成	31
Cloud Pod アーキテクチャ構成をテストする	32
例：基本的な Cloud Pod アーキテクチャ 構成の設定	32
トポロジ例の設計	33
構成例の初期化	34
構成例でのポッドの参加	34
構成例でのサイトの作成	35
構成例でのグローバル デスクトップ資格の作成	35
構成例の URL の作成	36

4 Cloud Pod アーキテクチャ 環境の管理 37

Cloud Pod アーキテクチャ 構成を表示する	37
Horizon Administrator でのポッド フェデレーションの健全性の表示	39
ポッド フェデレーションのデスクトップ セッションおよびアプリケーション セッションの表示	39
サイトへのポッドの追加	40
グローバル資格の変更	40
グローバル資格からのプールの削除	41
ユーザーまたはグループのグローバル資格への追加	41
グローバル資格からのユーザーまたはグループの削除	41
グローバル資格の属性またはポリシーの変更	42
グローバル資格の削除	44
ホーム サイト割り当ての管理	44
ホーム サイト割り当ての変更	44
ホーム サイト割り当ての削除	45
ユーザーの有効なホーム サイトの特定	45
ホーム サイト上書きの変更	46
ホーム サイト上書きの削除	46
ポッド フェデレーションからのポッドの削除	47
Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化解除	47

5 Imvutil コマンド リファレンス 49

Imvutil コマンドの使用	49
Imvutil コマンドでの認証	50
Imvutil コマンドの出力	50
Imvutil コマンドのオプション	50
Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化	53
Cloud Pod アーキテクチャ機能の無効化	53
ポッド フェデレーションの管理	54
ポッド フェデレーションへのポッドの参加	54
ポッド フェデレーションからのポッドの削除	55

ポッド名または説明の変更	56
サイトの管理	56
サイトの作成	57
サイトへのポッドの割り当て	57
サイト名前または説明の変更	58
サイトの削除	59
グローバル資格の管理	59
グローバル資格の作成	60
グローバル資格の変更	63
グローバル資格の削除	66
グローバル資格へのプールの追加	67
グローバル資格からのプールの削除	68
グローバル資格へのユーザーまたはグループの追加	68
グローバル資格からのユーザーまたはグループの削除	69
ホーム サイトの管理	70
ホーム サイトの構成	70
ホーム サイトの削除	71
Cloud Pod アーキテクチャ構成の表示	72
グローバル資格の一覧表示	73
グローバル資格のプールの一覧表示	73
グローバル資格のユーザーまたはグループの一覧表示	74
ユーザーまたはグループのホーム サイトの一覧表示	75
ユーザーの有効なホーム サイトの一覧表示	75
デスクトップ プールの専用割り当ての一覧表示	76
Cloud Pod アーキテクチャ トポロジでのポッドまたはサイトの一覧表示	77
SSL 証明書の管理	77
保留中の証明書の作成	78
保留中の証明書のアクティベーション	78

Horizon 7 での Cloud Pod アーキテクチャ の管理

Horizon 7 での Cloud Pod アーキテクチャの管理 では、Cloud Pod アーキテクチャ 環境を VMware Horizon[®] 7 で構成および管理する方法について説明しています。具体的には、Cloud Pod アーキテクチャ トポロジの計画、Cloud Pod アーキテクチャ 構成の設定、監視、メンテナンスの方法を紹介します。

対象読者

この情報は、Cloud Pod アーキテクチャ 環境の設定とメンテナンスを行う方を対象としています。本書に記載されている情報は、仮想マシンのテクノロジーとデータセンターの操作に精通した、経験豊富な Windows または Linux システム管理者向けに書かれています。

VMware の技術ドキュメントの用語集

VMware の技術ドキュメントには、専門的な用語などを集約した用語集があります。VMware の技術ドキュメントで使用されている用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。

Cloud Pod アーキテクチャ について

Cloud Pod アーキテクチャ機能では、標準の Horizon コンポーネントを使用して、複数のデータセンターにわたる管理、ユーザーとデスクトップ間のグローバルで柔軟なマッピング、高可用性デスクトップ、ディザスタ リカバリなどの機能を提供します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- Cloud Pod アーキテクチャ の概要
- Cloud Pod アーキテクチャ 環境の構成と管理
- Cloud Pod アーキテクチャの制限

Cloud Pod アーキテクチャ の概要

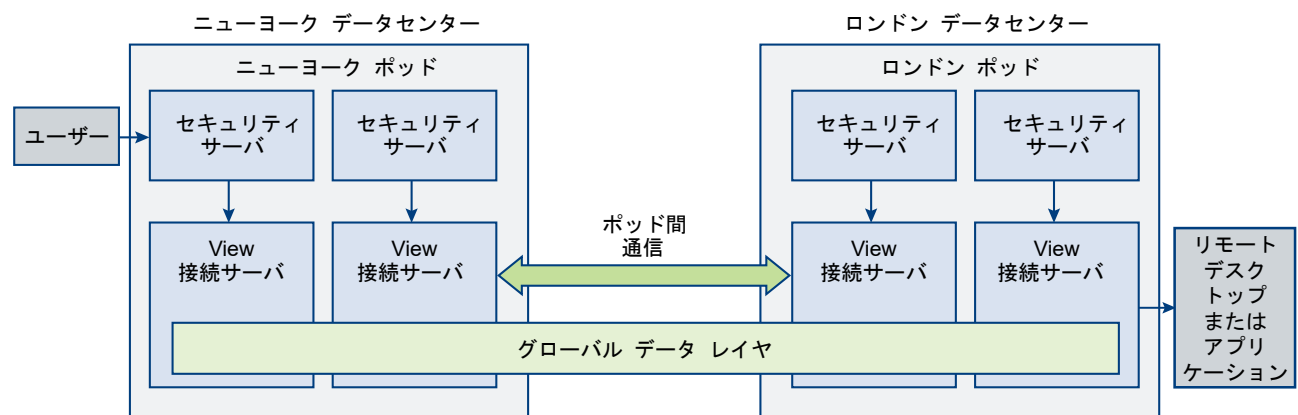
Cloud Pod アーキテクチャ機能を利用することで、複数のポッドをまとめてリンクし、デスクトップとアプリケーションを仲介した単一の大きな環境を提供し、環境の管理を行います。

ポッドは、接続サーバ インスタンス、共有ストレージ、データベース サーバー式と、デスクトップとアプリケーション プールをホストするために必要な vSphere およびネットワーク インフラストラクチャから構成されます。従来の Horizon 実装では、各ポッドの管理は個別に行われます。Cloud Pod アーキテクチャ機能を使用すると、複数のポッドを参加させて、ポッド フェデレーションと呼ばれる単一の Horizon 実装を構成できます。

各ポッド フェデレーションは複数のサイトとデータセンターにわたって構成できるため、大規模の Horizon 環境を管理するうえで必要な作業を同時に簡易化できます。

以下のダイアグラムは、基本的な Cloud Pod アーキテクチャ トポロジの例です。

図 1-1. 基本的な Cloud Pod アーキテクチャ トポロジ



この例のトポロジでは、異なるデータセンターにある本来スタンドアロンのポッドが結ばれることで単一のポッド フェデレーションを形成しています。この環境のエンド ユーザーは、ニューヨークのデータセンターの接続サーバ インスタンスに接続して、ロンドンのデータセンターにあるデスクトップまたはアプリケーションを受信できます。

グローバル データ レイヤーのキー データの共有

ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスはグローバル データ レイヤーを使用してキー データを共有します。共有されるデータには、ポッド フェデレーション トポロジに関する情報、ユーザー資格とグループ資格、ポリシー、およびその他の Cloud Pod アーキテクチャ構成情報が含まれています。

Cloud Pod アーキテクチャ環境では、共有データがポッド フェデレーション内の各接続サーバ インスタンスに複製されます。グローバル データ レイヤーに保存される資格情報とトポロジ構成情報は、ポッド フェデレーションでデスクトップが割り当てられる場所と方法を定義します。

Horizon は、Cloud Pod アーキテクチャ 機能を初期化するとき、ポッド フェデレーション内の各接続サーバ インスタンスでグローバル データ レイヤーを設定します。

ポッド間でのメッセージの送信

接続サーバ インスタンスは、Cloud Pod アーキテクチャ 環境で、View InterPod API (VIPA) というポッド間通信プロトコルを使用して通信します。

接続サーバ インスタンスは、VIPA 通信チャネルを使用して新しいデスクトップの起動、既存デスクトップの検出、健全性ステータス データなどの情報の共有を行います。Horizon は、Cloud Pod アーキテクチャ 機能を初期化するときに、VIPA 通信チャネルを構成します。

Cloud Pod アーキテクチャ 環境の構成と管理

Cloud Pod アーキテクチャ 環境の構成と管理には、Horizon Administrator および `lmvutil` コマンドライン インターフェイスを使用します。`lmvutil` は、Horizon インストールの一部としてインストールされます。ポッドの健全性情報とセッション情報の表示に Horizon Administrator を使用することもできます。

Cloud Pod アーキテクチャの制限

Cloud Pod アーキテクチャ機能にはいくつかの制限があります。

- Cloud Pod アーキテクチャ機能は、IPv6 環境ではサポートされません。
- 回避策を実装しない限り、キオスク モード クライアントは Cloud Pod アーキテクチャ の導入環境ではサポートされません。手順については、VMware ナレッジベースの記事 [KB2148888](#) を参照してください。

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジ の設計

2

Cloud Pod アーキテクチャ機能の構成を開始する前に、Cloud Pod アーキテクチャ トポロジを決定する必要があります。Cloud Pod アーキテクチャ トポロジは、目的やユーザーのニーズ、および既存の Horizon 実装によって異なる場合があります。既存の Horizon ポッドをポッド フェデレーションに参加させる場合の Cloud Pod アーキテクチャ トポロジは、一般に既存のネットワーク トポロジに基づいたものになります。

この章には、次のトピックが含まれています。

- Cloud Pod アーキテクチャ サイトの作成
- ポッド フェデレーションでのユーザーおよびグループの資格付与
- ポッド フェデレーションでのデスクトップおよびアプリケーションの検索と割り当て
- 非認証ユーザーの考慮事項
- グローバル資格の例
- グローバル資格に対する接続サーバ制限の実装
- グローバル資格に対するクライアント制限の実装
- グローバル資格でセッション共同作業を有効にする
- Workspace ONE モードの考慮事項
- バージョン混在環境の考慮事項
- Cloud Pod アーキテクチャ トポロジの制限
- Cloud Pod アーキテクチャ ポート要件
- Cloud Pod アーキテクチャ トポロジに関するセキュリティ考慮事項

Cloud Pod アーキテクチャ サイトの作成

Cloud Pod アーキテクチャ環境におけるサイトとは、同一の物理的場所（通常は単一データセンター内）で適切に接続されたポッドの集合のことです。Cloud Pod アーキテクチャ機能では、同一サイト内のポッドを等価なものとして扱います。

Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化すると、すべてのポッドが Default First Site と呼ばれるデフォルト サイトに配置されます。実装が大規模な場合は、追加サイトを作成して、ポッドをそれらの追加サイトに追加することもできます。

Cloud Pod アーキテクチャ機能では、同じサイト内のポッドは同じ LAN 上にあること、および異なるサイト内のポッドは異なる LAN 上にあることを想定しています。WAN 接続されたポッドのネットワーク パフォーマンスは低い
ため、Cloud Pod アーキテクチャ機能は、ユーザーにデスクトップおよびアプリケーションを割り当てるときに、ローカル
のポッドまたはサイト内にあるデスクトップおよびアプリケーションを優先します。

サイトは、ディザスタ リカバリ ソリューションで有用な役割を果たすことがあります。たとえば、さまざまなデータ
センター内のポッドをさまざまなサイトに割り当てて、それらのサイト全体にわたるプールに対する資格をユーザー
やグループに割り当てることができます。あるサイトのデータセンターが使用不可になった場合は、使用可能なサ
イトからデスクトップおよびアプリケーションを使用して、ユーザーの要求を満たすことができます。

ポッド フェデレーションでのユーザーおよびグループの資格付与

従来の Horizon 環境では、ローカル資格を作成するために Horizon Administrator を使用します。これらのローカ
ル資格では、ユーザーおよびグループに対し、接続サーバ インスタンス上の特定のデスクトップ プールまたはアプ
リケーション プールを使用する資格が付与されます。

Cloud Pod アーキテクチャ環境では、グローバル資格を作成して、ポッド フェデレーション内の複数のポッドにわ
たる複数のデスクトップおよびアプリケーションに対してユーザーまたはグループに資格を付与します。グローバル
資格を使用すると、ローカル資格を構成および管理する必要はありません。ポッドを 1 つ含むポッド フェデレーシ
ョンであっても、グローバル資格によって管理がシンプルになります。

グローバル資格はグローバル データ レイヤーに保存されます。グローバル資格は共有データであるため、グローバ
ル資格情報はポッド フェデレーション内のすべての接続サーバ インスタンスで使用できます。

グローバル デスクトップ資格を作成して、デスクトップに対する資格をユーザーおよびグループに付与します。各グ
ローバル デスクトップ資格には、メンバー ユーザーまたはグループのリスト、資格のあるユーザーにデスクトップ
を提供できるデスクトップ プールのリスト、および範囲ポリシーが含まれています。グローバル資格内のデスクト
ップ プールは、流動プールでも専用プールでもかまいません。グローバル資格が流動と専用のどちらであるかは、グ
ローバル資格の作成時に指定します。

グローバル アプリケーション資格を作成して、アプリケーションに対する資格をユーザーおよびグループに付与しま
す。各グローバル アプリケーション資格には、メンバー ユーザーまたはグループのリスト、資格のあるユーザーに
アプリケーションを提供できるアプリケーション プールのリスト、および範囲ポリシーが含まれています。

グローバル資格の範囲ポリシーでは、Horizon がグローバル資格内のユーザーにデスクトップまたはアプリケーシ
ョンを割り当てるときに、デスクトップまたはアプリケーションを探す場所を指定します。また、Horizon がデスク
トップまたはアプリケーションを探すときに、ポッド フェデレーション内の任意のポッド、同じサイト内に存在するポ
ッド、ユーザーが接続しているポッドのみのどれを対象とするのかを指定します。

ベスト プラクティスとして、ローカル資格とグローバル資格を同じデスクトップ プールに対して構成しないでくだ
さい。たとえば、同じデスクトップ プールに対してローカル資格とグローバル資格の両方を作成する場合、Horizon
Client が資格のあるユーザーに表示するデスクトップおよびアプリケーションのリストに、同じデスクトップがロー
カルおよびグローバル資格として表示されることがあります。同じように、同じファームから作成されたアプリケー
ション プールに対してローカル資格とグローバル資格の両方を構成しないでください。

ポッド フェデレーションでのデスクトップおよびアプリケーションの検索と割り当て

Cloud Pod アーキテクチャ環境の接続サーバインスタンスは、グローバル データ レイヤーから共有されているグローバル資格およびトポロジ構成情報を使用して、ポッド フェデレーション内でデスクトップおよびアプリケーションを検索する場所と、割り当てる方法を指定します。

ユーザーがグローバル資格からデスクトップまたはアプリケーションを要求すると、Horizon は、そのグローバル資格に関連付けられているプール内で使用可能なデスクトップまたはアプリケーションを検索します。デフォルトの場合、Horizon は、ローカル ポッド、ローカル サイト、およびその他のサイトのポッド内の順に検索します。

専用デスクトップ プールを含むグローバル デスクトップ資格の場合、Horizon はユーザーが初めてデスクトップを要求したときのみデフォルトの検索動作を使用します。Horizon が専用デスクトップを割り当てると、ユーザーは同じデスクトップへと直接戻ります。

範囲ポリシーを設定してホーム サイトを構成することにより、個別のグローバル資格に対する検索および割り当て動作を変更することができます。

範囲ポリシーの概要

グローバル デスクトップ資格またはグローバル アプリケーション資格を作成する場合、その範囲ポリシーを指定する必要があります。範囲ポリシーでは、Horizon がグローバル資格の要求を満たすデスクトップまたはアプリケーションを検索するときの検索範囲を指定します。

範囲ポリシーは、Horizon が、ユーザーが接続するポッドのみ、ユーザーのポッドと同じサイト内のポッドのみ、またはポッド フェデレーションのすべてのポッドで検索するように設定できます。

専用のプールを含むグローバル デスクトップ資格の場合、範囲ポリシーは、ユーザーが専用デスクトップを初めて要求したときに Horizon がデスクトップを検索する場所に影響します。Horizon が専用デスクトップを割り当てると、ユーザーは同じデスクトップへと直接戻ります。

ユーザーごとの複数セッション ポリシーについて

グローバル デスクトップ資格を作成するときに、ユーザーが別のクライアント デバイスから別のデスクトップ セッションを開始できるかどうかを指定できます。ユーザーごとの複数セッション ポリシーは、フローティング デスクトップ プールが含まれるグローバル デスクトップ資格にのみ適用されます。

ユーザーごとの複数セッション ポリシーを有効にすると、複数のクライアント デバイスからグローバル資格に接続するユーザーは、複数のデスクトップ セッションを受け取ります。既存のデスクトップ セッションに再接続するには、そのセッションが開始されたのと同じデバイスを使用する必要があります。このポリシーを有効にしないと、使用するクライアント デバイスに関係なく、ユーザーは常に既存のデスクトップ セッションに再接続します。

グローバル資格でユーザーごとの複数のセッションのポリシーを有効にした場合、グローバル資格に関連付けられたすべてのデスクトップ プールでもセッションごとに複数ユーザーをサポートしている必要があります。

ホーム サイトの使用

ホーム サイトはユーザーまたはグループと、Cloud Pod アーキテクチャ サイトとの間の関係です。Horizon は、ホーム サイトを使用して、ユーザーの現在の場所ではなく、特定のサイトからデスクトップおよびアプリケーションの検索を開始します。

ホーム サイトが使用できない場合やユーザーの要求を満たすリソースがない場合、Horizon はグローバル資格用の範囲ポリシー設定に従って他のサイトの検索を続行します。

専用のプールを含むグローバル デスクトップ資格の場合、ホーム サイトは、ユーザーが専用デスクトップを初めて要求したときに Horizon がデスクトップを検索する場所に影響します。Horizon が専用デスクトップを割り当てると、ユーザーは同じデスクトップへと直接戻ります。

Cloud Pod アーキテクチャ機能には、以下のホーム サイト割り当ての種類があります。

グローバル ホーム サイト ユーザーまたはグループに割り当てられているホーム サイト。

ホーム サイトを持つユーザーが別のホーム サイトに関連付けられているグループに属している場合、ユーザーに関連付けられているホーム サイトはグループ ホーム サイトの割り当てよりも優先されます。

グローバル ホーム サイトはローミング ユーザーがデスクトップおよびアプリケーションを受信する場所を制御するのに便利です。たとえば、ホーム サイトがニューヨークにあるユーザーがロンドンを訪れている場合、Horizon はユーザーに近いデスクトップを割り当ててではなく、ニューヨークのサイトでユーザーのデスクトップ要求を満たすようにします。グローバル ホーム サイト割り当てはすべてのグローバル資格に適用されます。

重要: デフォルトでは、グローバル資格がホーム サイトを認識しません。グローバル資格でホーム サイトを使用するには、グローバル資格を作成または変更するときに [ホーム サイトを使用する] オプションを選択する必要があります。

グローバル資格ごとのホーム サイト (ホーム サイト上書き) グローバル資格に関連付けられているホーム サイト。

グローバル資格ごとのホーム サイトはグローバル ホーム サイト割り当てをオーバーライドします。このため、グローバル資格ごとのホーム サイトは「ホーム サイト上書き」とも呼ばれます。

たとえば、ニューヨークにホーム サイトがあるユーザーが、そのユーザーをロンドンのホーム サイトに関連付けるグローバル資格にアクセスする場合、Horizon はニューヨークのサイトからアプリケーションを割り当ててではなく、ユーザーのアプリケーション要求をロンドンのサイトで満たすようにします。

ホーム サイトの構成はオプションです。ユーザーがホーム サイトを持っていない場合、Horizon は[ポッド フェデレーションでのデスクトップおよびアプリケーションの検索と割り当て](#)に説明されているようにデスクトップおよびアプリケーションを検索して割り当てます。

非認証ユーザーの考慮事項

Horizon 管理者は、接続サーバ インスタンスにある公開アプリケーションに認証なしでアクセスできるユーザーを作成できます。Cloud Pod アーキテクチャ 環境では、非認証ユーザーをグローバル アプリケーション資格に追加して、ポッド フェデレーション全体のアプリケーションにこれらの非認証ユーザーがアクセスできる資格を付与できます。

Cloud Pod アーキテクチャ 環境の非認証ユーザーに関する考慮事項を、次に説明します。

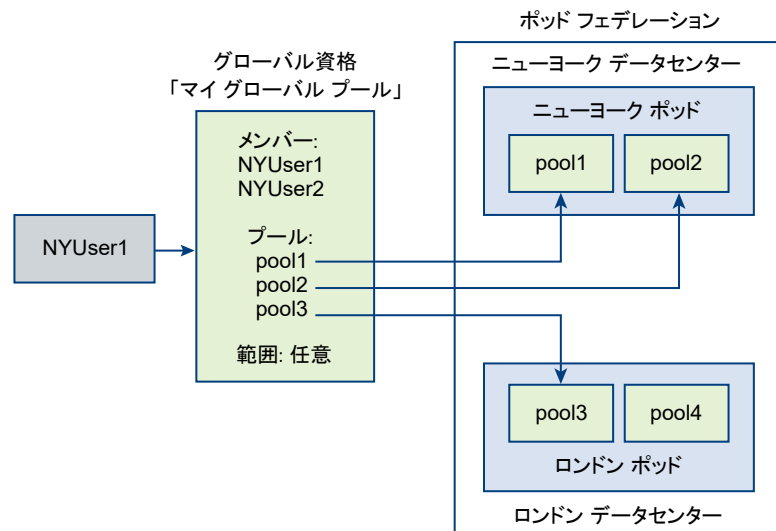
- 非認証ユーザーは、グローバルアプリケーション資格のみを付与できます。非認証ユーザーがグローバル デスクトップ資格に含まれている場合、Horizon Administrator のグローバル デスクトップ資格の [ユーザーとグループ] タブの名前の横に警告アイコンが表示されます。
- ポッドをポッド フェデレーションに参加させると、非認証ユーザーのデータはグローバル データ レイヤーに移行されます。ポッド フェデレーションから非認証ユーザーが含まれるポッドの結合を解除したり取り出したりすると、そのポッドの非認証ユーザーのデータはグローバル データ レイヤーから削除されます。
- 各 Active Directory ユーザーについて関連付けることができる非認証ユーザーは 1 名だけです。同じユーザーエイリアスが複数の Active Directory ユーザーにマップされている場合、Horizon Administrator の [ユーザーとグループ] ペインの [非認証アクセス] タブにエラー メッセージが表示されます。
- 非認証ユーザーにホーム サイトを割り当てることができます。
- 非認証ユーザーは、複数のセッションを実行できます。

非認証ユーザーの設定の詳細については、『View 管理』を参照してください。

グローバル資格の例

この例で、NYUser1 はグローバル デスクトップ資格 My Global Pool のメンバーです。My Global Pool は、3 つのフローティングデスクトップ プール pool1、pool2、および pool3 に対する資格を提供します。pool1 および pool2 は New York データセンター内のポッド NY Pod にあり、pool3 および pool4 は London データセンター内のポッド LDN Pod にあります。

図 2-1. グローバル資格の例



My Global Pool の範囲ポリシーは ANY であるため、Cloud Pod アーキテクチャ機能は、NYUser1 がデスクトップを要求したときに、NY Pod と LDN Pod の両方にわたってデスクトップを探します。pool4 は My Global Pool に含まれないため、Cloud Pod アーキテクチャ機能は pool4 からデスクトップを割り当てようとしません。

デスクトップが使用可能な場合は、NYUser1 が NY Pod にログインすると、Cloud Pod アーキテクチャ機能は pool1 または pool2 からデスクトップを割り当てます。デスクトップが pool1 でも pool2 でも使用できない場合、Cloud Pod アーキテクチャ機能は pool3 からデスクトップを割り当てます。

制限付きグローバル資格の例については、[接続サーバの制限の例](#)を参照してください。

グローバル資格に対する接続サーバ制限の実装

ユーザーがグローバル資格を選択するときに最初に接続する接続サーバ インスタンスに基づいて、グローバル資格へのアクセスを制限できます。

接続サーバの制限機能を使用するには、接続サーバ インスタンスに 1 つ以上のタグを割り当てます。その後、グローバル資格を構成するときに、グローバル資格へのアクセス権限を付与する接続サーバ インスタンスのタグを指定します。

グローバル デスクトップ資格およびグローバル アプリケーション資格にタグを追加できます。

タグ一致

接続サーバ制限機能は、タグの一致を使用して、接続サーバ インスタンスが特定のグローバル資格にアクセスできるかどうかを決定します。

最も基本的なレベルでは、タグの一致は、特定のタグを持つ接続サーバ インスタンスが同じタグを持つグローバル資格にアクセスできることを決定します。

タグの割り当てがないことも、接続サーバ インスタンスに接続するユーザーがグローバル資格にアクセスできるかどうかに影響を与える場合があります。たとえば、タグを持たない接続サーバ インスタンスは、やはりタグを持たないグローバル資格にのみアクセスできます。

[表 2-1. タグ一致のルール](#)に、接続サーバ インスタンスがグローバル資格にアクセスできる場合に、タグ一致がどのように決定されるかを示します。

表 2-1. タグ一致のルール

接続サーバ	グローバル資格	アクセスの許可
タグなし	タグなし	はい
タグなし	1 つ以上のタグ	いいえ
1 つ以上のタグ	タグなし	はい
1 つ以上のタグ	1 つ以上のタグ	タグが一致する場合のみ

接続サーバ制限機能は、タグ一致にのみ適用されます。特定のクライアントが特定の接続サーバ インスタンスを通して接続するように、ネットワーク トポロジを設計する必要があります。

接続サーバ制限の要件と制限

グローバル資格に接続サーバの制限を実装する前に、特定の要件や制限事項に注意する必要があります。

- 1 つの接続サーバ インスタンスまたはグローバル資格は、複数のタグを持つことはできません。
- 複数の接続サーバ インスタンスおよびグローバル資格は、同じタグを持つことはできません。

- すべての接続サーバ インスタンスは、タグを持たないグローバル資格にアクセスできます。
- タグを持たない接続サーバ インスタンスは、タグを持たないグローバル資格にのみアクセスできます。
- セキュリティ サーバを使用する場合は、セキュリティ サーバと対になっている接続サーバ インスタンスに制限を設定する必要があります。セキュリティ サーバに制限を設定することはできません。
- 接続サーバ制限は、他の資格またはデスクトップ割り当てよりも優先されます。たとえば、ユーザーが特定のマシンに割り当てられていても、グローバル資格に割り当てられたタグが、ユーザが接続されている接続サーバ インスタンスに割り当てられたタグと一致しない場合、ユーザーはそのマシンにアクセスできません。
- VMware Identity Manager からグローバル資格へのアクセスを提供することを意図して接続サーバ制限を構成すると、これらのグローバル資格が実際には制限されている場合でも VMware Identity Manager アプリケーションでユーザーにグローバル資格が表示されることがあります。VMware Identity Manager ユーザーがグローバル資格への接続を試みると、グローバル資格に割り当てられているタグが、ユーザーが接続する接続サーバ インスタンスに割り当てられているタグと一致しなければ、デスクトップやアプリケーションは開始されません。

接続サーバの制限の例

この例は、2 つのポッドが含まれる Cloud Pod アーキテクチャ 環境を示しています。両方のポッドには、2 つの接続サーバ インスタンスが含まれます。最初の接続サーバ インスタンスは内部ユーザーをサポートし、2 番目の接続サーバ インスタンスはセキュリティ サーバと対になって外部ユーザーをサポートします。

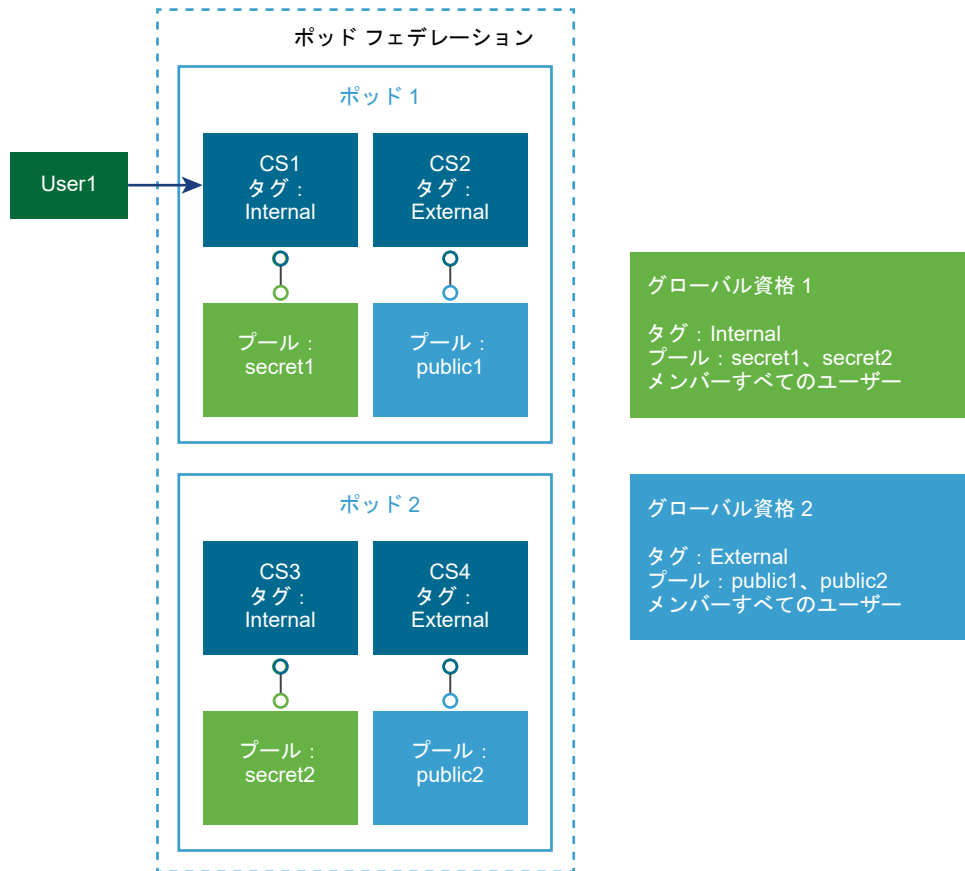
外部ユーザーが特定のデスクトップおよびアプリケーション プールにアクセスできないようにするには、次のようにタグを割り当てることができます。

- タグ「Internal」を、内部ユーザーをサポートする接続サーバ インスタンスに割り当てます。
- タグ「External」を、外部ユーザーをサポートする接続サーバ インスタンスに割り当てます。
- 内部ユーザーのみがアクセスできるようにするグローバル資格に、「Internal」タグを割り当てます。
- 外部ユーザーのみがアクセスできるようにするグローバル資格に、「External」タグを割り当てます。

外部ユーザーは、External としてタグ付けされた接続サーバ インスタンスからログインするため、Internal としてタグ付けされているグローバル資格がこれらの外部ユーザーに表示されることはありません。内部ユーザーは、Internal としてタグ付けされた接続サーバ インスタンスからログインするため、External としてタグ付けされているグローバル資格がこれらの内部ユーザーに表示されることはありません。

次の図では、User1 が CS1 という接続サーバ インスタンスに接続しています。CS1 には Internal というタグが付けられており、グローバル資格 1 にも Internal というタグが付けられているため、User1 にはグローバル資格 1 しか表示されません。グローバル資格 1 にはプール secret1 と secret2 が含まれているため、User1 は secret1 プールと secret2 プールのデスクトップまたはアプリケーションのみを受け取ることができます。

図 2-2. 接続サーバの制限の例



グローバル資格に対するクライアント制限の実装

グローバル資格へのアクセスを特定のクライアント コンピュータに制限できます。アクセスを制限するには、グローバル資格へのアクセスを許可するクライアント コンピュータの名前を Active Directory セキュリティ グループに追加し、このグループをグローバル資格のユーザーとグループに追加します。

クライアント制限機能には、特定の要件と制限事項があります。

- グローバル資格を作成または変更するときに、クライアント制限ポリシーを有効にする必要があります。デフォルトでは、クライアント制限ポリシーは無効になっています。このポリシーは、フローティング デスクトップ資格とグローバル アプリケーション資格に対してのみ有効にできます。
- グローバル資格クライアント制限のポリシー設定を使用すると、プール レベルのクライアント制限のポリシー設定がオーバーライドされます。ベスト プラクティスとして、グローバル資格でクライアントの制限ポリシーを有効にする場合には、グローバル資格が含まれているプールでクライアントの制限ポリシーを有効にしないでください。
- グローバル資格を作成または変更するときに、グローバル資格へのアクセスを許可するクライアント コンピュータの名前を含む Active Directory セキュリティ グループを追加する必要があります。

- クライアント制限機能を使用すると、特定のクライアント コンピュータにのみグローバル資格へのアクセスを許可できます。ユーザーにグローバル資格へのアクセスは許可されません。たとえば、ユーザーがユーザーまたはユーザー グループのメンバーとしてグローバル資格に含まれていない場合、ユーザーのクライアント コンピュータがグローバル資格へのアクセスが許可されている場合でも、このユーザーはグローバル資格にアクセスできません。
- クライアント制限機能は、このリリースの Windows クライアント コンピュータでのみサポートされます。クライアント コンピュータに Horizon Client 4.6 for Windows 以降が必要です。
- グローバル資格でクライアント制限ポリシーが有効になっている場合、Windows 以外のクライアント、バージョン 4.6 より前の Horizon Client for Windows が実行されている Windows クライアント、HTML Access クライアントはグローバル資格を起動できません。

グローバル資格でセッション共同作業を有効にする

セッション共同作業機能を使用すると、エンドユーザーを既存のリモート デスクトップ セッションに招待できます。

リモート デスクトップ ユーザーの共同作業を有効にするには、Horizon 管理者が、リモート デスクトップを提供するデスクトップ プールのセッション共同作業機能を有効にする必要があります。RDS デスクトップ プールの場合、Horizon 管理者は、RDS デスクトップ プールの基になっているファームでセッション共同作業機能を有効にする必要があります。

招待したユーザーにセッション オーナー以外のポッドからユーザー セッションへの参加を許可するには、デスクトップ プールを含むグローバル デスクトップ資格にセッション共同作業機能を有効にする必要があります。

セッション共同作業は、公開アプリケーションでサポートされません。ライセンス要件を含む詳細な要件と制約事項については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』ドキュメントで「セッション共同作業の設定」を参照してください。

Workspace ONE モードの考慮事項

Horizon 管理者が接続サーバ インスタンスで Workspace ONE モードを有効にすると、Horizon Client ユーザーは Workspace ONE サーバにリダイレクトし、資格を開始することができます。

Workspace ONE モードの設定時に、Horizon 管理者は Workspace ONE サーバのホスト名を指定します。Cloud Pod アーキテクチャ 環境で、同じ Workspace ONE サーバを参照するように、ポッド フェデレーション内のすべてのポッドを設定する必要があります。

Workspace ONE モードの設定方法については、『View 管理』ドキュメントの「Horizon Administrator で Workspace ONE アクセス ポリシーを設定する」を参照してください。

バージョン混在環境の考慮事項

バージョンが混在する Cloud Pod アーキテクチャ 環境は、Horizon 7 バージョン 7.4 以降でサポートされます。たとえば、ポッド フェデレーションに、Horizon 7 バージョン 7.4 のポッドと Horizon 6 バージョン 6.x のポッドを混在できます。

新機能は、混在環境で動作しません。たとえば、Horizon 7 バージョン 7.4 の接続サーバ インスタンスでは Horizon Administrator に新しい機能が表示されますが、Horizon 6 バージョン 6.x の接続サーバ インスタンスでは Horizon Administrator に表示されません。VMware では、すべてのポッドを同じ Horizon 7 バージョンにアップグレードすることを推奨します。

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジの制限

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジは、一般に、ポッド フェデレーション内で一緒にリンクされた 2 つ以上のポッドで構成されます。ポッド フェデレーションは一定の制限を受けます。

表 2-2. ポッド フェデレーションの制限

オブジェクト	制限
セッションの合計	140,000
ポッド	25
ポッドあたりのセッション数	10,000
サイト	7
接続サーバ インスタンス	175

Cloud Pod アーキテクチャ ポート要件

Cloud Pod アーキテクチャが機能するためには、Windows ファイアウォールで特定のネットワーク ポートを開く必要があります。接続サーバのインストール時に、必要なファイアウォール ルールをインストール プログラムのオプションで構成できます。これらのルールは、デフォルトで使用されるポートを開きます。インストール後にデフォルトのポートを変更する場合、またはネットワークに他のファイアウォールがある場合は、Windows ファイアウォールを手動で構成する必要があります。

表 2-3. 接続サーバのインストール時に開かれるポート

プロトコル	TCP ポート	説明
HTTP	22389	グローバル データ レイヤーの LDAP レプリケーションに使用。共有データは、ポッド フェデレーション内の各接続サーバ インスタンスに複製されます。ポッド フェデレーション内の各接続サーバ インスタンスは、2 番目の LDAP インスタンスを実行して共有データを格納します。
HTTPS	22636	安全なグローバル データ レイヤーの LDAP レプリケーションに使用。
HTTPS	8472	View Interpod API (VIPA) 通信に使用。接続サーバ インスタンスは、VIPA 通信チャネルを使用して新しいデスクトップおよびアプリケーションの起動、既存デスクトップの検出、健全性ステータス データなどの情報の共有を行います。

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジに関するセキュリティ考慮事項

Horizon Administrator または `lmvutil` コマンドを使用して Cloud Pod アーキテクチャ 環境を構成し、管理するには、Administrators ロールを持つ必要があります。ルート アクセス グループに対する管理者ロールを持つユーザーは、スーパー ユーザーです。

接続サーバインスタンスが、複製された接続サーバインスタンスグループに属している場合、スーパーユーザーの権限は、ポッド内の他の接続サーバインスタンスまで拡張されます。同様に、ポッドがポッドフェデレーションに参加している場合、スーパーユーザーの権限は、ポッドフェデレーション内のすべてのポッドのすべての接続サーバインスタンスまで拡張されます。これらの権限は、グローバルデータレイヤでグローバル資格を変更し、他の操作を実行するために必要です。

特定のスーパーユーザーが、グローバルデータレイヤで操作をできないようにするには、管理者ロール割り当てを削除し、代わりにローカル管理者ロールを割り当てることができます。ローカル管理者ロールを持つユーザーは、ローカルの接続サーバインスタンスおよび複製されたグループの任意のインスタンスのみでスーパーユーザー権限を持ちます。

Horizon Administrator でのロールの割り当ての詳細については、『View 管理』を参照してください。

Cloud Pod アーキテクチャ 環境の設定

3

Cloud Pod アーキテクチャ 環境を設定するには、Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化し、ポッドをポッド フェデレーションに参加させ、グローバル資格を作成します。

Cloud Pod アーキテクチャ機能を使用するには、少なくとも 1 つのグローバル資格を作成および構成する必要があります。オプションでサイトを作成し、ホーム サイトを割り当てることができます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化](#)
- [ポッドをポッド フェデレーションに参加させる](#)
- [接続サーバ インスタンスへのタグの割り当て](#)
- [グローバル資格の Windows スタート メニュー ショートカットの設定](#)
- [グローバル資格の作成と構成](#)
- [グローバル資格へのプールの追加](#)
- [サイトの作成と構成](#)
- [ユーザーまたはグループへのホーム サイトの割り当て](#)
- [ホーム サイト上書きの作成](#)
- [Cloud Pod アーキテクチャ構成をテストする](#)
- [例：基本的な Cloud Pod アーキテクチャ 構成の設定](#)

Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化

Cloud Pod アーキテクチャ 環境を構成する前に、Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化する必要があります。

Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化が必要なのは、ポッド フェデレーション内の最初のポッドで 1 回だけです。ポッド フェデレーションにポッドを追加するには、初期化されたポッドに新しいポッドを参加させます。

初期化プロセスの間、Horizon によってポッド内の各接続サーバ インスタンス上にグローバル データ レイヤーが設定され、VIPA 通信チャンネルが構成され、各接続サーバ インスタンス間でレプリケーションが承諾されます。

手順

- 1 ポッド内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
Cloud Pod アーキテクチャ機能は、ポッド内のどの接続サーバ インスタンスからでも初期化できます。
- 2 Horizon Administrator で、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択し、[Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期する] をクリックします。
- 3 [初期化] ダイアログ ボックスが表示されたら、[OK] をクリックして初期化プロセスを開始します。
Horizon Administrator には初期化プロセスの進行状況が表示されます。初期化プロセスには数分かかることがあります。
Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されると、ポッド フェデレーションに初期化されたポッドと単一のサイトが含まれた状態になります。ポッド フェデレーションのデフォルト名は Horizon Cloud Pod Federation です。ポッドのデフォルト名は、接続サーバ インスタンスのホスト名に基づきます。たとえば、ホスト名が CS1 の場合、ポッド名は Cluster-CS1 です。デフォルトのサイト名は Default First Site です。
- 4 Horizon Administrator がクライアントの再ロードを求めるメッセージを表示したら、[OK] をクリックします。
Horizon Administrator ユーザー インターフェイスが更新されると、Horizon Administrator のインベントリ パネルで [グローバル資格] が [カタログ] の下に表示され、[サイト] が [View 構成] の下に表示されます。
- 5 (オプション) ポッド フェデレーションのデフォルト名を変更するには、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] を選択し、[編集] をクリックし、[名前] テキスト ボックスに新しい名前を入力して [OK] をクリックします。
- 6 (オプション) ポッドのデフォルト名を変更するには、[View 構成] - [サイト] を選択し、ポッドを選択して [編集] をクリックし、[名前] テキスト ボックスに新しい名前を入力して [OK] をクリックします。
- 7 (オプション) サイトのデフォルト名を変更するには、[View 構成] - [サイト] を選択し、サイトを選択して [編集] をクリックし、[名前] テキスト ボックスに新しい名前を入力して [OK] をクリックします。

次のステップ

ポッド フェデレーションにポッドをさらに追加するには、[ポッドをポッド フェデレーションに参加させる](#)を参照してください。

ポッドをポッド フェデレーションに参加させる

Cloud Pod アーキテクチャ初期化プロセス実行時に、Cloud Pod アーキテクチャ機能が単一のポッドを含むポッド フェデレーションを作成します。Horizon Administrator を使用して、ポッド フェデレーションに追加のポッドを追加させることができます。追加のポッドの参加はオプションです。

重要: ポッド フェデレーションに参加する操作を実行している間は、接続サーバ インスタンスを停止したり開始したりしないでください。接続サーバ サービスが正しく再起動しない可能性があります。接続サーバの停止と開始は、ポッド フェデレーションに正常に参加した後で実行できます。

前提条件

- 参加する接続サーバ インスタンスの名前がそれぞれ異なっていることを確認します。同じ名前のサーバは、インスタンスが異なるドメインにあるとしても、参加することはできません。
- Cloud Pod アーキテクチャの機能を初期化します。 [Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド フェデレーションに参加するポッド内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択し、[ポッド フェデレーションに参加する] をクリックします。
- 3 [接続サーバ] テキスト ボックスに、初期化された任意のポッド、またはすでにポッド フェデレーションに参加済みの任意のポッドで、任意の接続サーバ インスタンス の ホスト名または IP アドレスを入力します。
- 4 [ユーザー名] テキスト ボックスに、すでに初期化されたポッドの Horizon 管理者ユーザーの名前を入力します。フォーマット `domain\username` を使用します。
- 5 [パスワード] テキスト ボックスに、Horizon 管理者ユーザのパスワードを入力します。
- 6 [OK] をクリックしてポッド フェデレーションにポッドを参加させます。

Horizon Administrator は参加操作の進行状況を示します。ポッドのデフォルト名は、接続サーバ インスタンスのホスト名に基づきます。たとえば、ホスト名が CS1 の場合、ポッド名は Cluster-CS1 です。

- 7 Horizon Administrator がクライアントの再ロードを求めるメッセージを表示したら、[OK] をクリックします。
Horizon Administrator ユーザー インターフェイスが更新されると、Horizon Administrator のインベントリ パネルで [グローバル資格] が [カタログ] の下に表示され、[サイト] が [View 構成] の下に表示されます。
- 8 (オプション) ポッドのデフォルト名を変更するには、[View 構成] - [サイト] を選択し、ポッドを選択して [編集] をクリックし、[名前] テキスト ボックスに新しい名前を入力して [OK] をクリックします。

ポッドをポッド フェデレーションに参加させた後、健全性データの共有を開始します。この健全性データは、Horizon Administrator のダッシュボードで表示できます。 [Horizon Administrator でのポッド フェデレーションの健全性の表示](#)を参照してください。

注: Horizon Administrator で健全性データが使用可能になるまで短い遅延時間が発生する可能性があります。

次のステップ

これらの手順を繰り返して、ポッド フェデレーションに追加のポッドを参加させることができます。

接続サーバ インスタンスへのタグの割り当て

ユーザーがグローバル資格の選択で最初に接続する接続サーバ インスタンスに基づいてグローバル資格へのアクセスを制限する場合には、最初に接続サーバ インスタンスに 1 つ以上のタグを割り当てる必要があります。

前提条件

接続サーバの制限機能について理解する必要があります。[グローバル資格に対する接続サーバ制限の実装](#)を参照してください。

手順

- 1 接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator にログインします。
- 2 [View 構成] - [サーバ] の順に選択します。
- 3 [接続サーバ] タブをクリックし、接続サーバ インスタンスを選択して [編集] をクリックします。
- 4 [タグ] テキスト ボックスに 1 つ以上のタグを入力します。
複数のタグはカンマまたはセミコロンで区切ります。
- 5 [OK] をクリックして変更を保存します。
- 6 タグを割り当てる各接続サーバ インスタンスについて、これらの手順を繰り返します。

次のステップ

グローバル資格を作成または編集する場合、グローバル資格にアクセスする接続サーバ インスタンスに関連付けられているタグを選択します。[グローバル資格の作成と構成](#)または[グローバル資格の属性またはポリシーの変更](#)を参照してください。

グローバル資格の Windows スタート メニュー ショートカットの設定

グローバル資格にショートカットを設定できます。資格のあるユーザーがポッド フェデレーションの接続サーバ インスタンスに接続すると、Horizon Client for Windows は、これらのショートカットをユーザーの Windows クライアント デバイスのスタート メニューに配置します。

グローバル資格を作成または変更するときに、スタート メニュー ショートカットを設定できます。ショートカットを設定するときに、カテゴリ フォルダまたはルート (/) フォルダを選択する必要があります。カテゴリ フォルダを追加し、独自の名前を付けることもできます。たとえば、Office をという名前のカテゴリ フォルダを追加し、そのフォルダを Microsoft Office や Microsoft PowerPoint など、仕事に関連するアプリケーション用に選択できます。

Windows 7 のクライアント デバイスの場合、Horizon Client はカテゴリ フォルダとショートカットをスタート メニューの VMware アプリケーション フォルダに配置します。ショートカットにルート (/) フォルダを選択した場合、Horizon Client は VMware Applications フォルダの直下にショートカットを配置します。

Windows 8 および Windows 10 クライアント デバイスの場合、Horizon Client は、カテゴリ フォルダとショートカットをアプリケーション リストに配置します。ショートカットにルート (/) フォルダを選択した場合、Horizon Client は、アプリケーション リストのデスクトップ カテゴリにショートカットを配置します。

ショートカットを作成すると、Horizon Administrator の [グローバル資格] ページにあるグローバル資格の [アプリケーション ショートカット] 列にチェック マークが表示されます。

デフォルトでは、資格のあるユーザーが最初にサーバに接続したときに、Horizon Client はプロンプトを表示し、ショートカットをインストールするように指示します。[Horizon Server の構成時にショートカットを自動的にインストールする] グループ ポリシー設定を変更すると、ショートカットを自動的にインストールしたり、ショートカットをインストールしないように Horizon Client を設定できます。詳細については、『VMware Horizon Client for Windows のインストールとセットアップ ガイド』を参照してください。

デフォルトでは、ユーザーがサーバに接続するたびに、ショートカットに対する変更がユーザーのクライアント デバイスと同期されます。ユーザーは、Horizon Client でショートカット同期機能を無効にできます。詳細については、『VMware Horizon Client for Windows のインストールとセットアップ ガイド』ドキュメントの「スタート メニュー ショートカットの更新動作の設定」を参照してください。

この機能を使用するには、Horizon Client 4.6 for Windows 以降が必要です。

グローバル資格の作成と構成

グローバル資格を使用して、Cloud Pod アーキテクチャ環境のデスクトップおよびアプリケーションに対する資格をユーザーおよびグループに付与します。グローバル資格では、デスクトップおよびアプリケーションがポッド フェデレーションのどこにあるかにかかわらず、ユーザーとそのデスクトップおよびアプリケーション間のリンクを提供します。

グローバル資格には、メンバー ユーザーまたはグループのリスト、一連のポリシー、資格のあるユーザーにデスクトップまたはアプリケーションを提供できるプールのリストが含まれています。ユーザーおよびグループの両方、ユーザーのみ、グループのみのいずれかをグローバル資格に追加できます。

前提条件

- Cloud Pod アーキテクチャの機能を初期化します。 [Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化](#)を参照してください。
- 作成するグローバル デスクトップ資格のタイプ、グローバル資格に含めるユーザーとグループ、グローバル資格の範囲を決定します。 [ポッド フェデレーションでのユーザーおよびグループの資格付与](#)を参照してください。
- グローバル資格の選択時に最初に接続する接続サーバ インスタンスに基づいて、グローバル資格へのアクセスを制限するかどうかを決定します。 [グローバル資格に対する接続サーバ制限の実装](#)を参照してください。
- Windows のスタート メニューにグローバル資格のショートカットを作成するかどうかを決定します。 [グローバル資格の Windows スタート メニュー ショートカットの設定](#)を参照してください。
- ユーザーがグローバル資格の選択で最初に接続する接続サーバ インスタンスに基づいてグローバル資格へのアクセスを制限する場合には、接続サーバ インスタンスに 1 つ以上のタグを割り当てます。 [接続サーバ インスタンスへのタグの割り当て](#)を参照してください。
- グローバル資格へのアクセスを特定のクライアント コンピュータのみに制限するには、グローバル資格へのアクセスを許可するコンピュータ名を含む Active Directory セキュリティ グループを作成し、このグループにグローバル資格のユーザーとグループを追加します。 [グローバル資格に対するクライアント制限の実装](#)を参照してください。
- グローバル資格でホーム サイトを使用するかどうかを決定します。 [ホーム サイトの使用](#)を参照してください。
- セッション共同作業機能を有効にするかどうかを決定します。 [グローバル資格でセッション共同作業を有効にする](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、[追加] をクリックします。
- 3 追加するグローバル資格のタイプを選択して、[次へ] をクリックします。

オプション	説明
デスクトップに対する資格	グローバル デスクトップ資格を追加します。
アプリケーションに対する資格	グローバル アプリケーション資格を追加します。

- 4 グローバル資格を構成します。

- a [名前] テキスト ボックスにグローバル資格の名前を入力します。

名前には 1 文字から 64 文字が使用できます。この名前は、資格のあるユーザーの Horizon Client の使用可能なデスクトップおよびアプリケーションのリストに表示されます。

- b (オプション) [説明] テキスト ボックスにグローバル資格の説明を入力します。

説明には 1 文字から 1024 文字が使用できます。

- c (オプション) グローバル資格へのアクセスを制限するには、接続サーバ制限の [参照] ボタンをクリックして、[次のタグに制限] を選択します。グローバル資格に関連付けるタグを選択して、[OK] をクリックします。

グローバル資格にアクセスできるのは、選択したタグを持つ接続サーバ インスタンスだけです。

注: 選択できるのは、ローカル ポッドの接続サーバ インスタンスに割り当てられているタグだけです。他のポッドの接続サーバ インスタンスに割り当てられているタグを選択するには、そのポッドの接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator にログインし、グローバル資格を変更する必要があります。

- d (オプション) グローバル資格に Windows スタート メニュー ショートカットを作成するには、カテゴリ フォルダの [参照] ボタンをクリックします。[フォルダ リストからカテゴリ フォルダを選択] を選択して、リストからカテゴリ フォルダを選択し、[OK] をクリックします。

[新しいフォルダ] テキスト ボックスにフォルダ名を入力して [追加] をクリックすると、新しいカテゴリ フォルダを作成できます。

- e (グローバル デスクトップ資格のみ) ユーザー割り当てポリシーを選択します。

ユーザー割り当てポリシーでは、グローバル デスクトップ資格に含めることができるデスクトップ プールのタイプを指定します。選択できるユーザー割り当てポリシーは 1 つのみです。

オプション	説明
フローティング	フローティング デスクトップ資格を作成します。フローティング デスクトップ資格にはフローティング デスクトップ プールのみを含めることができます。
専用	専用デスクトップ資格を作成します。専用デスクトップ資格には専用デスクトップ プールのみを含めることができます。

- f グローバル資格用の範囲ポリシーを選択します。

範囲ポリシーでは、グローバル資格からの要求を満たすデスクトップまたはアプリケーションを探す場所を指定します。選択できる範囲ポリシーは 1 つのみです。

オプション	説明
すべてのサイト	ポッド フェデレーションの任意のポッドでデスクトップまたはアプリケーションを探します。
サイト内	ユーザーが接続しているポッドと同じサイト内のポッドでのみデスクトップまたはアプリケーションを探します。
ポッド内	ユーザーが接続しているポッドでのみデスクトップまたはアプリケーションを探します。

- g (オプション) ユーザーにホーム サイトがある場合は、グローバル資格のホーム サイト ポリシーを構成します。

オプション	説明
ホーム サイトを使用する	ユーザーのホーム サイト内のデスクトップまたはアプリケーションの検索を開始します。ユーザーにホーム サイトがなく、[資格のあるユーザーにはホーム サイトが必要である] オプションが選択されていない場合、ユーザーが接続しているサイトがホーム サイトと見なされます。
資格のあるユーザーにはホーム サイトが必要である	ユーザーにホーム サイトがある場合のみグローバル資格を使用可能にします。このオプションは、[ホーム サイトを使用する] オプションが選択されている場合のみ利用可能です。

- h (オプション) [冗長セッションを自動的にクリーンアップする] オプションを使用して、冗長セッションをクリーンアップするかどうかを指定します。

注: このオプションは、フローティング デスクトップ資格およびグローバル アプリケーション資格でのみ利用可能です。

複数のセッションは、セッションを含むポッドがオフラインになり、ユーザーが再度ログインして別のセッションを開始し、問題のポッドが元のセッションでオンラインに戻るときに発生する可能性があります。複数のセッションが発生すると、セッションを選択するように指示するメッセージが Horizon Client によって表示されます。このオプションは、ユーザーが選択しないセッションに何が発生するかを決定します。このオプションを選択しない場合、ユーザーは Horizon Client でログオフするか、セッションを起動してログオフして、自身の余剰セッションを手動で終了する必要があります。

- i グローバル資格内のデスクトップまたはアプリケーションに対するデフォルト表示プロトコルを選択し、ユーザーにデフォルト表示プロトコルのオーバーライドを許可するかどうかを指定します。
- j (グローバル デスクトップ資格のみ) ユーザーがグローバル デスクトップ資格のデスクトップをリセットできるかどうかを選択します。
- k グローバル資格でユーザーが HTML Access 機能を使用してデスクトップまたはアプリケーションにアクセスできるかどうかを選択します。

HTML Access ポリシーを有効にすると、エンド ユーザーは Web ブラウザを使用してリモート デスクトップおよびアプリケーションに接続できるため、ローカル システムにクライアント ソフトウェアをインストールする必要がありません。

- l (グローバル デスクトップ資格のみ) セッション共同作業機能を有効にするかどうかを選択します。

セッション共同作業機能を有効にすると、他のユーザーを自身のリモート デスクトップ セッションに招待できます。

注: このポリシーを有効にする場合、グローバル デスクトップ資格のすべてのデスクトップ プールがセッション共同作業機能をサポートしている必要があります。RDS デスクトップ プールの場合、セッション共同作業機能はファーム レベルで有効になります。

- m (グローバル デスクトップ資格のみ) ユーザーが複数のクライアント デバイスから個別のデスクトップ セッションを開始できるかどうかを選択します。

ユーザーごとの複数セッション ポリシーを有効にすると、複数のクライアント デバイスからグローバル資格に接続するユーザーは、複数のデスクトップ セッションを受け取ります。既存のデスクトップ セッションに再接続するには、そのセッションが開始されたのと同じデバイスを使用する必要があります。このポリシーを有効にしないと、使用するクライアント デバイスに関係なく、ユーザーは常に既存のデスクトップ セッションに再接続します。このポリシーは、フローティング デスクトップ資格に対してのみ有効にできます。

注: このポリシーを有効にすると、グローバル資格にあるすべてのデスクトップ プールもユーザーごとの複数セッションをサポートしている必要があります。

- n グローバル資格へのアクセスを特定のクライアント コンピュータに制限するかどうかを選択します。

グローバル資格へのアクセスを許可するコンピュータの名前を Active Directory セキュリティ グループに追加する必要があります。グローバル資格にユーザーまたはグループを追加するときに、このセキュリティグループを選択できます。

注: このポリシーは、フローティング デスクトップ資格とグローバル アプリケーション資格に対してのみ有効にできます。

- o (グローバル アプリケーション資格のみ) ユーザーが Horizon Client でグローバル アプリケーション資格を開く前に、アプリケーション セッションを起動するかどうかを選択します。

事前起動ポリシーを有効にすると、ユーザーはグローバル アプリケーション資格をより迅速に起動できます。

注: このポリシーを有効にする場合、グローバル アプリケーション資格のすべてのアプリケーション プールが、セッションの事前起動機能をサポートし、すべてのファームで事前起動セッションのタイムアウトが同じである必要があります。

5 [次へ] をクリックして、グローバル資格にユーザーまたはグループを追加します。

- a [追加] をクリックして、1 つ以上の検索基準を選択し、[検索] をクリックして検索基準に基づいてユーザーまたはグループをフィルタ処理します。

[非認証ユーザー] チェック ボックスを選択すると、非認証アクセス ユーザーを見つけてグローバル アプリケーション資格に追加できます。非認証アクセス ユーザーをグローバル デスクトップ資格に追加することはできません。非認証アクセス ユーザーをグローバル デスクトップ資格に追加しようとする、Horizon Administrator はエラー メッセージを返します。

- b グローバル資格に追加するユーザーまたはグループを選択して、[OK] をクリックします。

グローバル資格へのアクセスを特定のクライアント コンピュータに制限するには、グローバル資格へのアクセスを許可するコンピュータの名前を含む Active Directory セキュリティ グループを選択します。

Ctrl + Shift キーを押すと、複数のユーザーやグループを選択できます。

6 [次へ] をクリックし、グローバル資格の構成を確認してから、[完了] をクリックしてグローバル資格を作成します。

グローバル資格が [グローバル資格] ページに表示されます。

Cloud Pod アーキテクチャ アーキテクチャ機能では、グローバル資格がグローバル データ レイヤーに保存され、そこでポッド フェデレーションの各ポッドにグローバル資格が複製されます。

次のステップ

作成したグローバル資格内のユーザー用にデスクトップまたはアプリケーションを提供できるプールを選択します。
[グローバル資格へのプールの追加](#)を参照してください。

グローバル資格へのプールの追加

Horizon Administrator を使用して、既存のグローバル デスクトップ資格にデスクトップ プールを追加したり、既存のグローバル アプリケーション資格にアプリケーション プールを追加したりできます。

1 つのグローバル資格に複数のプールを追加できますが、特定のプールを追加できるグローバル資格は 1 つだけです。

グローバル アプリケーション資格に複数のアプリケーション プールを追加する場合、同じアプリケーションを追加する必要があります。たとえば、電卓と Microsoft Office PowerPoint を同じグローバル アプリケーション資格に追加しないでください。異なるアプリケーションを同じグローバル アプリケーション資格に追加すると、資格のあるユーザーにその都度異なるアプリケーションが提供されます。

注: デスクトップ プールがグローバル デスクトップ資格に関連付けられた後で、Horizon 管理者がプールレベルの表示プロトコルまたはプロトコルのオーバーライド ポリシーを変更した場合、ユーザーがグローバル デスクトップ資格を選択するとデスクトップの起動エラーが表示されることがあります。デスクトップ プールがグローバル デスクトップ資格に関連付けられた後で、Horizon 管理者がプールレベルの仮想マシンのリセット ポリシーを変更した場合、ユーザーがデスクトップをリセットしようとする、エラーが表示されることがあります。

前提条件

- グローバル資格を作成して設定します。[グローバル資格の作成と構成](#)を参照してください。

- グローバル資格に追加するデスクトップ プールまたはアプリケーション プールを作成します。『Horizon 7 での仮想デスクトップのセットアップ』または『Horizon 7 での公開されたデスクトップとアプリケーションのセットアップ』を参照してください。

手順

- 1 グローバル資格に追加するプールを含むポッド内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。
- 3 グローバル資格をダブルクリックします。
- 4 [ローカル プール] タブで、[追加] をクリックし、追加するデスクトップ プールまたはアプリケーション プールを選択し、[追加] をクリックします。

Ctrl + Shift キーを押すと、複数のプールを選択できます。

注: グローバル資格にすでに関連付けられている、または選択したグローバル資格ポリシーの基準を満たさないプールは、表示されません。たとえば、HTML Access ポリシーを有効にした場合、HTML Access を許可しないプールを選択することはできません。

- 5 グローバル資格に追加するプールを含む各ポッド内の接続サーバ インスタンスでこれらの手順を繰り返します。

資格のあるユーザーが Horizon Client を使用してポッド フェデレーションの接続サーバに接続すると、使用可能なデスクトップおよびアプリケーションのリストにグローバル資格の名前が表示されます。

サイトの作成と構成

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジに複数のポッドが含まれる場合は、それらのポッドを複数のサイトにグループ化することもできます。Cloud Pod アーキテクチャ機能では、同一サイト内のポッドを等価なものとして扱います。

前提条件

- Cloud Pod アーキテクチャ トポロジにサイトを含めるべきかどうかを決定します。 [Cloud Pod アーキテクチャ サイトの作成](#)を参照してください。
- Cloud Pod アーキテクチャの機能を初期化します。 [Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 サイトを作成します。
 - a Horizon Administrator で、[View 構成] - [サイト] の順に選択し、[追加] をクリックします。
 - b [名前] テキスト ボックスにサイトの名前を入力します。

サイト名には 1 文字から 64 文字が使用できます。

- c (オプション) [説明] テキスト ボックスにサイトの説明を入力します。

サイト名には 1 文字から 1024 文字が使用できます。

- d [OK] をクリックしてサイトを作成します。

3 サイトにポッドを追加します。

サイトに追加するポッドごとにこの手順を繰り返します。

- a Horizon Administrator で、[View 構成] - [サイト] の順に選択し、現在サイトに追加するポッドを含んでいるサイトを選択します。

サイト内のポッドの名前が下部ペインに表示されます。

- b サイトに追加するポッドを選択して、[編集] をクリックします。

- c [サイト] ドロップダウン メニューからサイトを選択し、[OK] をクリックします。

ユーザーまたはグループへのホーム サイトの割り当て

ホーム サイトはユーザーまたはグループと、Cloud Pod アーキテクチャ サイトとの間の関係です。Horizon は、ホーム サイトを使用して、ユーザーの現在の場所ではなく、特定のサイトからデスクトップおよびアプリケーションの検索を開始します。ホーム サイトの割り当てはオプションです。

ユーザーがグローバル資格を選択したときにグローバル資格のホーム サイトがユーザー独自のホーム サイトよりも優先されるように、グローバル資格をホーム サイトに関連付けることができます。詳細については、[ホーム サイト上書きの作成](#)を参照してください。

前提条件

- Cloud Pod アーキテクチャ 環境のユーザーまたはグループにホーム サイトを割り当てるかどうかを決定します。 [ホーム サイトの使用](#)を参照してください。
- ポッド フェデレーションの内のポッドをサイトにグループ化します。 [サイトの作成と構成](#)を参照してください。
- デフォルトでは、グローバル資格はホーム サイトを使用しません。グローバル資格からデスクトップを割り当てるときに Horizon がユーザーのホーム サイトを使用するようにするには、グローバル資格を作成するときに、[ホーム サイトを使用する] オプションを選択する必要があります。 [グローバル資格の作成と構成](#)を参照してください。
- Cloud Pod アーキテクチャの機能を初期化します。 [Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サービンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[ユーザーとグループ] を選択し、[ホーム サイト] タブをクリックします。
- 3 [ホーム サイト] タブで、[追加] をクリックします。

- 4 1 つ以上の検索条件を選択し、[検索] をクリックして検索条件に基づきユーザーまたはグループをフィルタ処理します。
[非認証ユーザー] チェック ボックスを選択して、ポッド フェデレーションで非認証アクセス ユーザーを検索できます。
- 5 ユーザーまたはグループを選択して、[次へ] をクリックします。
- 6 ユーザーまたはグループに割り当てるホーム サイトを [ホーム サイト] ドロップダウン メニューから選択し、[終了] をクリックします。

ホーム サイト上書きの作成

グローバル資格をホーム サイトに関連付けることで、グローバル資格をユーザーが選択すると、グローバル資格のホーム サイトでユーザー自身のホーム サイトが上書きされるようになります。

ホーム サイト上書きを作成するには、ホーム サイトを特定のユーザーまたはグループが含まれているグローバル資格に関連付けます。ユーザー（または選択したグループのユーザー）がグローバル資格にアクセスすると、グローバル資格のホーム サイトによりユーザー独自のホーム サイトが上書きされます。

たとえば、ニューヨークにホーム サイトがあるユーザーが、そのユーザーをロンドンのホーム サイトに関連付けるグローバル資格にアクセスする場合、Horizon はニューヨークのサイトからアプリケーションを割り当てるのではなく、ユーザーのアプリケーション要求をロンドンのサイトで満たすようにします。

前提条件

- グローバル資格の [ホーム サイトを使用する] ポリシーが有効であることを確認します。詳細については、[グローバル資格の属性またはポリシーの変更](#)を参照してください。
- ユーザーまたはグループがグローバル資格に含まれていることを確認します。詳細については、[ユーザーまたはグループのグローバル資格への追加](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サービンスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。
- 3 グローバル資格をダブルクリックしてホーム サイトに関連付けます。
- 4 [ホーム サイト上書き] タブで、[追加] をクリックします。

注: グローバル資格に [ホーム サイトを使用する] ポリシーが有効ではない場合、[追加] ボタンは使用できません。

- 5 1 つ以上の検索条件を選択し、[検索] をクリックして検索条件に基づいて Active Directory ユーザーおよびグループをフィルタ処理します。
- 6 上書きするホーム サイトがある Active Directory ユーザーまたはグループを選択します。
ユーザーまたはグループは選択したグローバル資格にすでに含まれている必要があります。

- 7 [ホーム サイト] ドロップダウン メニューから、グローバル資格に関連付けるホーム サイトを選択します。
- 8 [終了] をクリックしてホーム サイト上書きを作成します。

Cloud Pod アーキテクチャ構成をテストする

Cloud Pod アーキテクチャ環境を初期化して構成した後で、環境が適切に設定されていることを確認する特定の手順を実行します。

前提条件

- 最新バージョンの Horizon Client をサポート対象コンピュータまたはモバイル デバイスにインストールします。
- 新規に作成したグローバル資格の 1 つにユーザーの認証情報があることを確認します。

手順

- 1 Horizon Client を開始します。
- 2 新しいグローバル資格のいずれかで、ユーザーの認証情報を使用して、ポッド フェデレーションの任意の接続サーバーインスタンスに接続します。

接続サーバーインスタンスに接続すると、使用可能なデスクトップおよびアプリケーションのリストにグローバル資格の名前が表示されます。

- 3 グローバル資格を選択し、デスクトップまたはアプリケーションに接続します。

デスクトップまたはアプリケーションが正常に起動しました。グローバル資格、ポッド、デスクトップ プールおよびアプリケーション プールのそれぞれの構成によって、どのデスクトップまたはアプリケーションが起動するかが決まります。Cloud Pod アーキテクチャ機能は、接続しているポッドからデスクトップまたはアプリケーションを割り当てようとします。

次のステップ

接続サーバーインスタンスに接続してもグローバル資格が表示されない場合は、Horizon Administrator を使用し、その資格が正常に構成されていることを確認します。グローバル資格が表示されてもデスクトップまたはアプリケーションが起動しない場合は、すべてのデスクトップ プールまたはアプリケーション プールが完全にその他のユーザーに割り当てられている可能性があります。

例：基本的な Cloud Pod アーキテクチャ 構成の設定

この例では、Cloud Pod アーキテクチャ機能を使用して Cloud Pod アーキテクチャ 構成を完了する方法を示します。

この例では、ある健康保険会社が中部と東部の 2 つの地域を行き来する外回りの販売員を抱えています。販売員はモバイル デバイスを使用して顧客に保険契約の見積りを提示し、顧客はデジタル文書を表示して署名します。

販売員はモバイル デバイスに顧客データを保存するのではなく、標準化されたフローティング デスクトップを使用します。顧客データへのアクセスは健康保険会社のデータセンターに安全に保存されています。

健康保険会社には、各地域にデータセンターが 1 つ置かれています。不定期に発生する容量の問題が原因で、販売員は使用可能なデスクトップを自分がいる地域以外のデータセンターで探すことになり、WAN 遅延問題が発生する場合があります。販売員は、デスクトップから切断してセッションをログインしたままにする場合、セッションをホストしているデータセンターを覚えておき、そのデスクトップに再接続する必要があります。

これらの問題を解決するために、健康保険会社は Cloud Pod アーキテクチャ トポロジを設計し、Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化し、既存のポッドをポッド フェデレーションに参加させ、各データセンターにサイトを作成し、販売員にすべてのデスクトップ プールを使用する資格を付与し、単一の URL を実装します。

手順

1 トポロジ例の設計

保険会社は、地域ごとに 1 つのサイトが含まれる Cloud Pod アーキテクチャ トポロジを設計します。

2 構成例の初期化

Cloud Pod アーキテクチャ 機能を初期化するには、Horizon 管理者が East Pod 1 内の接続サーバインスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択して、[Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化する] をクリックします。

3 構成例でのポッドの参加

Horizon 管理者は Horizon Administrator を使用して Central Pod 1 および Central Pod 2 をポッド フェデレーションに参加させることができます。

4 構成例でのサイトの作成

Horizon 管理者は Horizon Administrator を使用して、東部と中部のデータセンター用のサイトを作成し、これらのサイトにポッドを追加します。

5 構成例でのグローバル デスクトップ資格の作成

Horizon 管理者は Horizon Administrator を使用して、ポッド フェデレーション内のすべてのポッドにわたる販売員用デスクトップ プールのすべてのデスクトップに対してすべての販売員に資格を付与する、単一のグローバル デスクトップ資格を作成します。

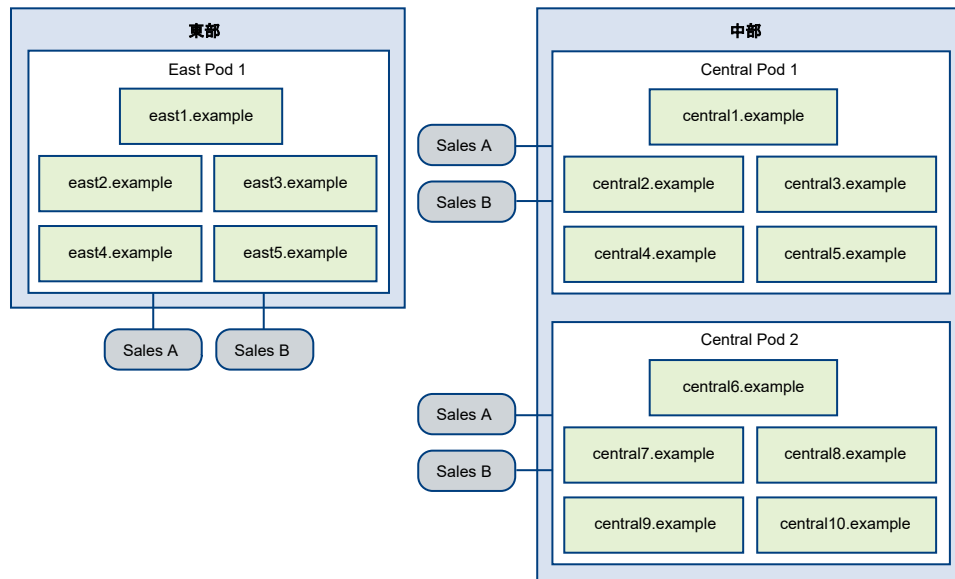
6 構成例の URL の作成

この保険会社は、単一の URL を使用しており、sales.example を最も近いデータセンター内の最も近いポッドに解決する DNS サービスを利用しています。この方法を使用すると、販売員はポッドごとに異なる複数の URL を記憶する必要がなく、どこにいても常に最も近いデータセンターに向けられます。

トポロジ例の設計

保険会社は、地域ごとに 1 つのサイトが含まれる Cloud Pod アーキテクチャ トポロジを設計します。

図 3-1. Cloud Pod アーキテクチャ トポロジの例



このトポロジでは、東部サイトには `east1.example` ~ `east5.example` という 5 つの接続サーバインスタンスから構成される単一ポッドの East Pod 1 が含まれます。

中部サイトには、Central Pod 1 と Central Pod 2 の 2 つのポッドが含まれます。それぞれのポッドは、5 つの接続サーバインスタンスを含んでいます。最初のポッドにある接続サーバの名前は、`central1.example` から `central5.example` と呼ばれます。2 番目のポッドにある接続サーバの名前は、`central6.example` から `central10.example` と呼ばれます。

トポロジ内の各ポッドには、販売員用デスクトップの 2 台のデスクトップ プール Sales A と Sales B があります。

構成例の初期化

Cloud Pod アーキテクチャ 機能を初期化するには、Horizon 管理者が East Pod 1 内の接続サーバインスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択して、[Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化する] をクリックします。

Horizon 管理者は East Pod 1 内の接続サーバインスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスを使用するため、ポッド フェデレーションは初期の時点で East Pod 1 を含んでいます。ポッド フェデレーションには、East Pod 1 を含んでいる Default First Site という名前の単一のサイトも含まれています。

構成例でのポッドの参加

Horizon 管理者は Horizon Administrator を使用して Central Pod 1 および Central Pod 2 をポッド フェデレーションに参加させることができます。

- 1 Central Pod 1 を参加させるには、Horizon 管理者が Central Pod 1 内の接続サーバインスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択して [ポッド フェデレーションに参加する] をクリックし、East Pod 1 の接続サーバインスタンスのホスト名または IP アドレスを提供します。

これで Central Pod 1 はポッド フェデレーションに参加することになります。

- 2 Central Pod 2 を参加させるには、Horizon 管理者が Central Pod 2 内の接続サーバ インスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択して [ポッド フェデレーションに参加する] をクリックし、East Pod 1 または Central Pod 1 の接続サーバ インスタンスのホスト名または IP アドレスを提供します。

これで Central Pod 2 はポッド フェデレーションに参加することになります。

Central Pod 1 と Central Pod 2 がポッド フェデレーションに参加した後、中部の両方のポッド内の 10 個の接続サーバ インスタンスすべてが、ポッド フェデレーションの一部になります。

構成例でのサイトの作成

Horizon 管理者は Horizon Administrator を使用して、東部と中部のデータセンター用のサイトを作成し、それらのサイトにポッドを追加します。

- 1 Horizon 管理者はポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 東部のデータセンター用のサイトを作成するには、Horizon 管理者が [View 構成] - [サイト] の順に選択して [追加] をクリックします。
- 3 中部のデータセンター用のサイトを作成するには、Horizon 管理者が [View 構成] - [サイト] の順に選択して [追加] をクリックします。
- 4 East Pod 1 を東部データセンターのサイトに移動するには、Horizon 管理者が [View 構成] - [サイト] の順に選択し、現在 East Pod 1 を含んでいるサイトを選択して East Pod 1 を選択し、[編集] をクリックし、東部のデータセンターのサイトを [サイト] ドロップダウン メニューから選択します。
- 5 Central Pod 1 を中部データセンターのサイトに移動するには、Horizon 管理者が [View 構成] - [サイト] の順に選択し、現在 Central Pod 1 を含んでいるサイトを選択して Central Pod 1 を選択し、[編集] をクリックし、中部のデータセンターのサイトを [サイト] ドロップダウン メニューから選択します。
- 6 Central Pod 2 を中部データセンターのサイトに移動するには、Horizon 管理者が [View 構成] - [サイト] の順に選択し、現在 Central Pod 2 を含んでいるサイトを選択して Central Pod 2 を選択し、[編集] をクリックし、中部のデータセンターのサイトを [サイト] ドロップダウン メニューから選択します。

これで、ポッド フェデレーション サイトのトポロジは、保険会社のネットワーク内のポッドの地理的分布を反映するようになります。

構成例でのグローバル デスクトップ資格の作成

Horizon 管理者は Horizon Administrator を使用して、ポッド フェデレーション内のすべてのポッドにわたる販売員用デスクトップ プールのすべてのデスクトップに対してすべての販売員に資格を付与する、単一のグローバル デスクトップ資格を作成します。

- 1 ユーザーを作成してグローバル デスクトップ資格に追加するには、Horizon 管理者がポッド フェデレーション内の接続サーバ用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、[追加] をクリックしてから、[デスクトップに対する資格] を選択します。

Horizon 管理者は Sales Agent グループをグローバル デスクトップ資格に追加します。Sales Agent グループは、Active Directory で定義され、すべての販売員ユーザーを含みます。Sales Agent グループを Sales Agent グローバル デスクトップ資格に追加すると、販売員は東部と中部のポッドにおける Sales A および Sales B デスクトップ プールにアクセスできるようになります。

- 2 East Pod 1 のデスクトップ プールをグローバル デスクトップ資格に追加するには、Horizon 管理者が East Pod 1 内の接続サーバ インスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル デスクトップ資格をダブルクリックし、[ローカル プール] タブで [追加] をクリックし、追加するデスクトップ プールを選択して [追加] をクリックします。
- 3 Central Pod 1 のデスクトップ プールをグローバル デスクトップ資格に追加するには、Horizon 管理者が Central Pod 1 内の接続サーバ インスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル デスクトップ資格をダブルクリックし、[ローカル プール] タブで [追加] をクリックし、追加するデスクトップ プールを選択して [追加] をクリックします。
- 4 Central Pod 2 のデスクトップ プールをグローバル デスクトップ資格に追加するには、Horizon 管理者が Central Pod 2 内の接続サーバ インスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル デスクトップ資格をダブルクリックし、[ローカル プール] タブで [追加] をクリックし、追加するデスクトップ プールを選択して [追加] をクリックします。

構成例の URL の作成

この保険会社は、単一の URL を使用しており、sales.example を最も近いデータセンター内の最も近いポッドに解決する DNS サービスを利用しています。この方法を使用すると、販売員はポッドごとに異なる複数の URL を記憶する必要がなく、どこにいても常に最も近いデータセンターに向けられます。

セールス エージェントが Horizon Client 内の URL に接続すると、使用可能なデスクトップ プールのリストに Agent Sales のグローバル資格が表示されます。販売員がグローバル デスクトップ資格を選択すると、Cloud Pod アーキテクチャ機能によってポッド フェデレーション内の最も近くにある使用可能なデスクトップが提供されます。ローカル データセンター内のすべてのデスクトップが使用中であれば、Cloud Pod アーキテクチャ機能で他のデータセンターからのデスクトップが選択されます。販売員がデスクトップ セッションをログイン状態のままにすると、Cloud Pod アーキテクチャ機能によって販売員がそのデスクトップに戻されます。これは、販売員が別の地域に移動した場合でも同じです。

Cloud Pod アーキテクチャ 環境の管理

4

Cloud Pod アーキテクチャ 環境の表示、変更、維持には、Horizon Administrator および `lmvutil` コマンドを使用します。Horizon Administrator を使用してポッド フェデレーション内のポッドの健全性を監視することもできます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [Cloud Pod アーキテクチャ 構成を表示する](#)
- [Horizon Administrator でのポッド フェデレーションの健全性の表示](#)
- [ポッド フェデレーションのデスクトップ セッションおよびアプリケーション セッションの表示](#)
- [サイトへのポッドの追加](#)
- [グローバル資格の変更](#)
- [ホーム サイト割り当ての管理](#)
- [ポッド フェデレーションからのポッドの削除](#)
- [Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化解除](#)

Cloud Pod アーキテクチャ 構成を表示する

Horizon Administrator または `lmvutil` コマンドを使用すると、グローバル資格、ポッド、サイト、ホーム サイトに関する情報を表示できます。

この手順では、Horizon Administrator を使用してグローバル資格、ポッド、サイト、ホーム サイトに関する情報を表示する方法を示します。`lmvutil` コマンドを使用してこの情報を表示するには、「[5 章 lmvutil コマンド リファレンス](#)」を参照してください。

この手順では、`lmvutil` コマンドを使用してグローバル資格に関連付けられたタグを一覧表示する方法も示します。Horizon Administrator には、グローバル資格に関連付けられたタグが表示されません。

手順

- ◆ 構成内のすべてのグローバル資格の一覧を表示するには、Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。

ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスを使用できます。

- ◆ グローバル資格内のデスクトップ プールまたはアプリケーション プールの一覧を表示するには、Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル資格の名前をダブルクリックして [ローカル プール] タブをクリックします。

ローカル ポッド内のプールのみが [ローカル プール] タブに表示されます。グローバル資格でリモート ポッドにデスクトップ プールまたはアプリケーション プールが含まれている場合、これらのプールを確認するには、リモート ポッド内の接続サーバインスタンス用の Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインする必要があります。

- ◆ グローバル資格内に関連付けられているユーザーまたはグループの一覧を表示するには、Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル資格の名前をクリックして [ユーザーとグループ] タブをクリックします。

ポッド フェデレーション内の接続サーバインスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスを使用できます。

- ◆ 特定のユーザーに割り当てられているグローバル資格を表示するには、Horizon Help Desk Tool を使用します。Horizon Help Desk Tool は、Horizon 7 ユーザー セッションのステータスを取得し、トラブルシューティングとメンテナンス操作を行う Web アプリケーションです。

詳細については、『View 管理』を参照してください。

- ◆ ポッド フェデレーション内のポッドの一覧を表示するには、Horizon Administrator で [View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択します。

ポッド フェデレーション内の接続サーバインスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスを使用できます。

- ◆ ポッド フェデレーション内のサイトの一覧を表示するには、Horizon Administrator で [View 構成] - [サイト] の順に選択します。

ポッド フェデレーション内の接続サーバインスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスを使用できます。

- ◆ グローバル資格別にユーザーのホーム サイトを一覧表示するには、Horizon Administrator で次の手順を実行します。

- [ユーザーとグループ] を選択して [ホーム サイト] タブをクリックし、[解像度] を選択します。
- [ユーザー検索はここをクリック] テキスト ボックス内をクリックします。
- 1 つ以上の検索条件を選択して [検索] をクリックし、検索条件に基づいて Active Directory ユーザーをフィルタ処理します。
- Active Directory ユーザーを選択し、[OK] をクリックします。
- [検索] をクリックし、ユーザーのホーム サイトを表示します。

グローバル資格名が [資格] 列に表示され、グローバル資格の有効なホーム サイトが [ホーム サイトの解像度] 列に表示されます。ホーム サイトの割り当て元は、ホーム サイト名の後に括弧内に表示されます。ユーザーに複数のホーム サイトがある場合は、グローバル資格名の横にフォルダ アイコンが表示されます。このフォルダを展開すると、グローバル資格の有効でないホーム サイトの割り当てがリストされます。

- ◆ グローバル資格に関連付けられているタグの一覧を表示するには、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル資格の名前をダブルクリックして [サマリ] タブをクリックします。

グローバル資格に関連付けられているタグは、[接続サーバの制限] フィールドに表示されます。

Horizon Administrator でのポッド フェデレーションの健全性の表示

Horizon は、各ポッドの健全性とポッドの接続サーバ インスタンスをチェックすることで、ポッド フェデレーションの健全性を常に監視しています。ポッド フェデレーションの健全性は、Horizon Administrator で表示できます。

ポッド フェデレーションの健全性は、コマンド ラインで `vdmadmin` コマンドに `-H` オプションを指定して使用し、表示することもできます。`vdmadmin` 構文の詳細については、『View 管理』を参照してください。

重要: Horizon イベント データベースは、ポッド フェデレーション内のポッド間で共有されません。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[インベントリ] - [ダッシュボード] の順に選択します。

[システムの健全性] ペインの [リモート ポッド] セクションには、すべてのポッド、そのメンバーの接続サービス インスタンス、および各接続サーバ インスタンスの既知の健全性ステータスが一覧表示されます。

緑の健全性アイコンは、接続サーバ インスタンスがオンラインで、Cloud Pod アーキテクチャ機能で使用できることを示しています。赤色の健全性アイコンは、接続サーバ インスタンスがオフラインであるか、Cloud Pod アーキテクチャ機能が接続サーバ インスタンスに接続できず、使用の可否を確認できないことを示しています。

ポッド フェデレーションのデスクトップ セッションおよびアプリケーション セッションの表示

Horizon Administrator を使用して、ポッド フェデレーションのデスクトップ セッションやアプリケーション セッションを検索および表示することができます。

デスクトップ セッションおよびアプリケーション セッションは、ユーザー、ポッド、または仲介ポッドで検索できます。ユーザーとはデスクトップまたはアプリケーションに接続しているエンド ユーザーのことで、ポッドとはデスクトップまたはアプリケーションがホストされているポッドのことで、仲介ポッドとはデスクトップまたはアプリケーションが最初に割り当てられたときにユーザーが接続していたポッドのことです。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[インベントリ] - [セッションを検索] の順に選択します。

3 検索条件を選択し、検索を開始します。

オプション	アクション
ユーザーで検索	a ドロップダウン メニューから [ユーザー] を選択します。 b テキスト ボックス内をクリックします。 c [ユーザーを検索] ダイアログ ボックスで検索条件を選択し、[OK] をクリックします。 d [検索] をクリックして検索を開始します。
ポッドで検索	a ドロップダウン メニューから [ポッド] を選択し、表示されるポッドのリストからポッドを選択します。 b [検索] をクリックして検索を開始します。
仲介ポッドで検索	a ドロップダウン メニューから [仲介ポッド] を選択し、表示されるポッドのリストからポッドを選択します。 b [検索] をクリックして検索を開始します。

検索結果には、ユーザー、セッションのタイプ（デスクトップまたはアプリケーション）、マシン、プールまたはファーム、ポッド、仲介ポッド ID、サイト、および各セッションに関連付けられているグローバル資格が含まれます。セッション開始時刻、所要時間、および状態も検索結果に表示されます。

注: 新しいセッションの場合、検索結果で仲介ポッド ID はすぐに表示されません。通常、この ID はセッションが開始してから 2 ～ 3 分の間に Horizon Administrator に表示されます。

サイトへのポッドの追加

Horizon Administrator を使用して既存のサイトにポッドを追加できます。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[View 構成] - [サイト] の順に選択します。
- 3 サイトに追加するポッドを現在含んでいるサイトを選択します。
サイト内のポッドの名前が下部ペインに表示されます。
- 4 サイトに追加するポッドを選択して、[編集] をクリックします。
- 5 [サイト] ドロップダウン メニューからサイトを選択し、[OK] をクリックします。

グローバル資格の変更

グローバル資格にプール、ユーザー、グループを追加したり、削除することができます。また、グローバル資格の削除と、グローバル資格の属性とポリシーも変更できます。

グローバル資格にプールを追加する方法については、[グローバル資格へのプールの追加](#)を参照してください。

グローバル資格からのプールの削除

Horizon Administrator を使用してグローバル資格からプールを削除できます。

手順

- 1 削除するプールを含むポッド内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。
- 3 [ローカル プール] タブで、グローバル資格から削除するプールを選択して [削除] をクリックします。

ユーザーまたはグループのグローバル資格への追加

Horizon Administrator を使用して既存のグローバル資格にユーザーまたはグループを追加できます。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル資格をダブルクリックします。
- 3 [ユーザーとグループ] タブで、[追加] をクリックします。
- 4 [追加] をクリックして、1 つ以上の検索条件を選択し、[検索] をクリックして検索条件に基づいて Active Directory ユーザーまたはグループをフィルタ処理します。

[非認証ユーザー] チェック ボックスを選択すると、非認証アクセス ユーザーを見つけてグローバル アプリケーション資格に追加できます。非認証アクセス ユーザーをグローバル デスクトップ資格に追加することはできません。非認証アクセス ユーザーをグローバル デスクトップ資格に追加しようとすると、Horizon Administrator はエラー メッセージを返します。

- 5 グローバル資格に追加する Active Directory ユーザーまたはグループを選択して、[OK] をクリックします。

グローバル資格へのアクセスを特定のクライアント コンピュータのみに制限するには、グローバル資格へのアクセスを許可するコンピュータの名前を含む Active Directory セキュリティ グループを選択します。

Ctrl + Shift キーを押すと、複数のユーザーやグループを選択できます。

グローバル資格からのユーザーまたはグループの削除

Horizon Administrator を使用してグローバル資格からユーザーまたはグループを削除できます。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択し、グローバル資格をダブルクリックします。

- 3 [ユーザーとグループ] タブで、削除するユーザーまたはグループを選択して [削除] をクリックします。

Ctrl または Shift キーを押すと、複数のユーザーやグループを選択できます。

- 4 確認のダイアログ ボックスで、[はい] をクリックします。

グローバル資格の属性またはポリシーの変更

Horizon Administrator を使用して、グローバル資格の名前、説明、属性、タグ、範囲などのポリシーを変更することができます。

グローバル デスクトップ資格に含めることができるデスクトップ プールのタイプは変更できません。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。
- 3 グローバル資格を選択し、[編集] をクリックします。
- 4 グローバル資格の名前または説明を変更するには、新しい名前または説明を [全般] ペインの [名前] または [説明] テキスト ボックスに入力します。

名前には 1 文字から 64 文字が使用できます。説明には 1 文字から 1024 文字が使用できます。

- 5 グローバル資格に関連付けられているタグを削除または変更するには、接続サーバ制限の [参照] ボタンをクリックします。

既存のタグをすべて削除するには、[制限なし] を選択します。異なるタグを持つグローバル資格に関連付けるには、[次のタグに制限] を選択します。グローバル資格にアクセスできるのは、選択したタグを持つ接続サーバ インスタンスだけです。

注: 選択できるのは、ローカル ポッドの接続サーバ インスタンスに割り当てられているタグだけです。他のポッドの接続サーバ インスタンスに割り当てられているタグを選択するには、そのポッドの接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator にログインし、グローバル資格を再度変更する必要があります。

- 6 グローバル資格の Windows スタート メニュー ショートカットを追加、削除または変更するには、カテゴリ フォルダの [参照] ボタンをクリックします。

[無効] を選択すると、既存のショートカットを削除できます。[フォルダ リストからカテゴリ フォルダを選択] を選択すると、別のカテゴリ フォルダを選択できます。新しいカテゴリ フォルダを追加するには、[新しいフォルダ] テキスト ボックスにフォルダ名を入力し、[追加] をクリックして、リストから新しいフォルダを選択します。

7 グローバル資格ポリシーを変更するには、[ポリシー] ペインでポリシーを選択または選択解除します。

ポリシー	説明
範囲	<p>グローバル資格からのデスクトップまたはアプリケーション要求を満たすデスクトップまたはアプリケーションを探す場所を指定します。選択できる範囲ポリシーは 1 つのみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [すべてのサイト] - ポッド フェデレーションの任意のポッドでデスクトップまたはアプリケーションを探します。 ■ [サイト内] - ユーザーが接続しているポッドと同じサイト内のポッドでのみデスクトップまたはアプリケーションを探します。 ■ [ポッド内] - ユーザーが接続しているポッドでのみデスクトップまたはアプリケーションを探します。
ホーム サイトを使用する	<p>ユーザーのホーム サイト内のデスクトップまたはアプリケーションの検索を開始するかどうかを決定します。ユーザーにホーム サイトがなく、[資格のあるユーザーにはホーム サイトが必要である] オプションが選択されていない場合、ユーザーが現在接続しているサイトがホーム サイトと見なされます。</p>
資格のあるユーザーにはホーム サイトが必要である	<p>ユーザーにホーム サイトがある場合のみグローバル資格を使用可能にします。このオプションは、[ホーム サイトを使用する] オプションが選択されている場合のみ利用可能です。</p>
冗長セッションを自動的にクリーンアップする	<p>同じ資格の余剰ユーザー セッションをログオフします。このオプションは、フローティング デスクトップ資格およびアプリケーション資格でのみ利用可能です。</p> <p>複数のセッションは、セッションを含むポッドがオフラインになり、ユーザーが再度ログインして別のセッションを開始し、問題のポッドが元のセッションでオンラインに戻るときに発生する可能性があります。複数のセッションが発生すると、セッションを選択するように指示するメッセージが Horizon Client によって表示されます。このオプションは、ユーザーが選択しないセッションに何が発生するかを決定します。このオプションを選択しない場合、ユーザーは Horizon Client でログオフするか、セッションを起動してログオフして、自身の余剰セッションを手動で終了する必要があります。</p>
デフォルト表示プロトコル	<p>グローバル資格におけるデスクトップまたはアプリケーションのデフォルト表示プロトコルを指定します。</p>
HTML Access	<p>グローバル資格でユーザーが HTML Access 機能を使用してデスクトップまたはアプリケーションにアクセスできるかどうかを決定します。HTML Access ポリシーを有効にすると、エンド ユーザーは Web ブラウザを使用してリモート デスクトップに接続できるため、ローカルシステムにクライアント ソフトウェアをインストールする必要がありません。</p>
セッション共同作業を許可	<p>他のユーザーをリモート デスクトップ セッションに招待できるかどうかを決定します。</p> <p>注: このポリシーを有効にする場合、グローバル デスクトップ資格のすべてのデスクトップ プールがセッション共同作業機能をサポートしている必要があります。RDS デスクトップ プールの場合、セッション共同作業機能はファーム レベルで有効になります。</p>
ユーザーが複数のクライアント デバイスからセッションを個別に開始できるようにする	<p>ユーザーが複数のクライアント デバイスから個別のデスクトップ セッションを開始できるかどうかを決定します。ユーザーごとの複数セッション ポリシーを有効にすると、複数のクライアント デバイスからグローバル資格に接続するユーザーは、複数のデスクトップ セッションを受け取ります。既存のデスクトップ セッションに再接続するには、そのセッションが開始されたのと同じデバイスを使用する必要があります。この設定を有効にしないと、使用するクライアント デバイスに関係なく、ユーザーは常に既存のデスクトップ セッションに再接続します。この設定は、フローティング デスクトップ資格に対してのみ有効にできます。</p> <p>注: このポリシーを有効にすると、グローバル デスクトップ資格のすべてのデスクトップ プールでユーザーごとの複数セッションをサポートしている必要があります。</p>

ポリシー	説明
事前起動	<p>ユーザーが Horizon Client でグローバル アプリケーション資格を開く前に、アプリケーション セッションを起動するかどうかを決定します。事前起動ポリシーを有効にすると、ユーザーはグローバル アプリケーション資格をより迅速に起動できます。</p> <p>注: このポリシーを有効にする場合、グローバル アプリケーション資格のすべてのアプリケーション プールが、セッションの事前起動機能をサポートし、すべてのファームで事前起動セッションのタイムアウトが同じである必要があります。</p>
クライアントの制限	<p>グローバル資格へのアクセスを特定のクライアント コンピュータに制限するかどうかを決定します。グローバル資格へのアクセスを許可するコンピュータの名前を Active Directory セキュリティ グループに追加する必要があります。グローバル資格にユーザーまたはグループを追加するときに、このセキュリティ グループを選択できます。</p> <p>注: このポリシーは、フローティング デスクトップ資格とグローバル アプリケーション資格に対してのみ有効にできます。</p>

- 8 グローバル アプリケーション資格のアプリケーションのパス、バージョン、パブリッシャ情報を変更するには、アプリケーションのテキスト ボックスに値を入力します。

注: これらの値を変更した後にアプリケーション プールをグローバル アプリケーション資格に追加すると、値がアプリケーション プールの値で上書きされます。

- 9 [OK] をクリックして変更を保存します。

グローバル資格の削除

Horizon Administrator を使用して、グローバル資格を完全に削除することができます。グローバル資格を削除すると、デスクトップのグローバル資格に従属するすべてのユーザーはそのデスクトップにアクセスできなくなります。既存のデスクトップ セッションは接続状態が維持されます。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サービ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。
- 3 削除するグローバル資格をクリックして、[削除] をクリックします。
- 4 確認のダイアログ ボックスで、[はい] をクリックします。

ホーム サイト割り当ての管理

ホーム サイト割り当ては、変更および削除できます。また、ユーザーが属するグローバル資格ごとに有効なホーム サイトを表示することもできます。

ホーム サイト割り当ての変更

特定のユーザーまたはグループの既存のホーム サイト割り当てを変更できます。

特定のユーザーまたはグループについてグローバル資格とホーム サイト間の関連付けを変更するには、[ホーム サイト上書きの変更](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サービンスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[ユーザーとグループ] を選択し、[ホーム サイト] タブをクリックして [割り当て] の順に選択します。
- 3 変更するホーム サイト割り当てを選択し、[編集] をクリックします。
- 4 [ホーム サイト] ドロップダウン メニューから別のホーム サイトを選択します。
- 5 [OK] をクリックして新しいホーム サイト割り当てを保存します。

ホーム サイト割り当ての削除

ユーザーまたはグループとホーム サイトの間の関連付けを削除できます。

特定のユーザーまたはグループについてホーム サイトとグローバル資格の間の関連付けを削除するには、[ホーム サイト上書きの削除](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サービンスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[ユーザーとグループ] を選択し、[ホーム サイト] タブをクリックして [割り当て] の順に選択します。
- 3 削除するホーム サイト割り当てを選択し、[削除] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックしてホーム サイト割り当てを削除します。

ユーザーの有効なホーム サイトの特定

ホーム サイトはユーザーとグループの両方に割り当てることができるため、各ユーザーは複数のホーム サイトを持つことができます。さらに、グローバル資格に関連付けられたホーム サイトはユーザー独自のホーム サイトをオーバーライドできます。Horizon Administrator を使用して、ユーザーの有効なホーム サイトを特定できます。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サービンスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[ユーザーとグループ] を選択して [ホーム サイト] タブをクリックし、[解像度] の順に選択します。
- 3 [ユーザー検索はここをクリック] テキスト ボックス内をクリックします。
- 4 1 つ以上の検索条件を選択して [検索] をクリックし、検索条件に基づいて Active Directory ユーザーをフィルタ処理します。

5 有効なホーム サイトを表示する Active Directory ユーザーを選択し、[OK] をクリックします。

6 [検索] をクリックします。

Horizon Administrator に、ユーザーが属する各グローバル資格の有効なホーム サイトが表示されます。[ホーム サイトを使用する] ポリシーが有効になっているグローバル資格のみが表示されます。

有効なホーム サイトは、[ホーム サイトの解像度] 列に表示されます。ユーザーに複数のホーム サイトがある場合は、[資格] 列のグローバル資格名の横にフォルダ アイコンが表示されます。このフォルダを展開すると、グローバル資格の有効でないホーム サイトの割り当てがリストされます。Horizon Administrator では、有効でないホーム サイトは取り消し線の付いたテキストで示されます。

Horizon Administrator の [ホーム サイトの解像度] 列には、ホーム サイト名の後にホーム サイトの割り当て元が括弧内に表示されます。ホーム サイトがユーザーの属するグループから割り当てられている場合、Horizon Administrator には [(ドメイン ユーザー経由)] のようにグループ名が表示されます。ホーム サイトがユーザー独自のホーム サイトから割り当てられている場合、Horizon Administrator には [(デフォルト)] と表示されます。ホーム サイトがグローバル資格から割り当てられている場合 (ホーム サイト上書き)、Horizon Administrator には [(ダイレクト)] と表示されます。

ユーザーにホーム サイトがない場合、Horizon Administrator の [ホーム サイトの解像度] 列に [ホーム サイトは定義されていません] と表示されます。

ホーム サイト上書きの変更

特定のユーザーまたはグループについてグローバル資格とホーム サイト間の関連付けを変更できます。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。
- 3 グローバル資格をダブルクリックします。
- 4 [ホーム サイト上書き] タブで、ユーザーまたはグループを選択して [編集] をクリックします。
- 5 [ホーム サイト] ドロップダウン メニューから別のホーム サイトを選択します。
- 6 [OK] をクリックして変更を保存します。

ホーム サイト上書きの削除

特定のユーザーまたはグループについてグローバル資格とホーム サイトの間の関連付けを削除できます。

手順

- 1 ポッド フェデレーション内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[カタログ] - [グローバル資格] の順に選択します。
- 3 グローバル資格をダブルクリックします。
- 4 [ホーム サイト上書き] タブで、ユーザーまたはグループを選択して [削除] をクリックします。

- 5 [OK] をクリックしてホーム サイト上書きを削除します。

ポッド フェデレーションからのポッドの削除

Horizon Administrator を使用し、以前にポッド フェデレーションに参加させたポッドを削除することができます。ポッドが別の目的で再コミッションされている場合や、誤って構成されていた場合は、そのポッドをポッド フェデレーションから削除できます。

ポッド フェデレーションの最後のポッドを削除するには、Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化解除します。

[Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化解除](#)を参照してください。

重要: 接続サーバをポッド フェデレーションから削除している間は、接続サーバ インスタンスの停止または起動を行わないでください。接続サーバ サービスが正しく再起動しない可能性があります。

手順

- 1 ポッド フェデレーションから削除するポッド内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択し、[ポッド フェデレーション] ペインで [離脱] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックして離脱操作を開始します。
Horizon Administrator は離脱操作の進行状況を示します。
- 4 Horizon Administrator がクライアントの再ロードを求めるメッセージを表示したら、[OK] をクリックします。
Horizon Administrator ユーザー インターフェイスが更新されると、Horizon Administrator のインベントリ パネルで [グローバル資格] が [カタログ] の下に表示されなくなり、[サイト] が [View 構成] の下に表示されなくなります。

Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化解除

Horizon Administrator を使用して Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化解除できます。

前提条件

Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化解除は、ポッド フェデレーション内の 1 つのポッドでのみ実行する必要があります。ポッド フェデレーションに複数のポッドが含まれる場合、初期化解除プロセスを開始する前に他のポッドを離脱させる必要があります。[ポッド フェデレーションからのポッドの削除](#)を参照してください。

手順

- 1 ポッド内の接続サーバ インスタンスの Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 Horizon Administrator で、[View 構成] - [Cloud Pod アーキテクチャ] の順に選択します。
- 3 [ポッド フェデレーション] ペインで、[初期化解除] をクリックします。

- 4 [OK] をクリックして初期化解除プロセスを開始します。

初期化解除プロセスが終了すると、サイト、ホーム サイト、グローバル資格などを含む Cloud Pod アーキテクチャの構成全体が削除されています。

- 5 Horizon Administrator がクライアントの再ロードを求めるメッセージを表示したら、[OK] をクリックします。

Horizon Administrator ユーザー インターフェイスが更新されると、Horizon Administrator のインベントリパネルで [グローバル資格] が [カタログ] の下に表示されなくなり、[サイト] が [View 構成] の下に表示されなくなります。

lvmutil コマンド リファレンス

Cloud Pod アーキテクチャ 実装を構成して管理するには、lvmutil コマンド ライン インターフェイスを使用します。

注: vdmutil コマンド ライン インターフェイスを使用して lvmutil と同じ操作を実行します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [lvmutil コマンドの使用](#)
- [Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化](#)
- [Cloud Pod アーキテクチャ機能の無効化](#)
- [ポッド フェデレーションの管理](#)
- [サイトの管理](#)
- [グローバル資格の管理](#)
- [ホーム サイトの管理](#)
- [Cloud Pod アーキテクチャ構成の表示](#)
- [SSL 証明書の管理](#)

lvmutil コマンドの使用

lvmutil コマンドの構文によって、コマンドの動作が制御されます。

Windows コマンド プロンプトで、次の形式の lvmutil コマンドを使用します。

```
lvmutil command_option [additional_option argument] ...
```

または、vdmutil コマンドを使用して lvmutil コマンドと同じ操作を実行できます。Windows コマンド プロンプトで、次の形式の vdmutil コマンドを使用します。

```
vdmutil command_option [additional_option argument] ...
```

使用できる追加のオプションは、コマンド オプションによって異なります。

デフォルトの場合、lvmutil および vdmutil コマンドの実行可能ファイルのパスは C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\tools\bin です。コマンド ラインにパスを入力するのを避けるには、PATH 環境変数にパスを追加します。

lmvutil コマンドでの認証

lmvutil コマンドを使用して Cloud Pod アーキテクチャ環境を構成し、管理するには、Administrators ロールを持つユーザーとしてこのコマンドを実行する必要があります。

Horizon Administrator を使用して管理者ロールをユーザーに割り当てることができます。『View 管理』ドキュメントを参照してください。

lmvutil コマンドには、認証に使用するユーザー名、ドメイン、およびパスワードを指定するオプションがあります。

表 5-1. lmvutil コマンドの認証オプション

オプション	説明
--authAs	Horizon 管理者ユーザーの名前。domain\username またはユーザー プリンシパル名 (UPN) 形式を使用しないでください。
--authDomain	--authAs オプションで指定された Horizon 管理者ユーザーの完全修飾ドメイン名。
--authPassword	--authAs オプションで指定された Horizon 管理者ユーザーのパスワード。パスワードの代わりに "*" を入力すると、lmvutil コマンドでパスワードが要求され、機密性の高いパスワードはコマンドラインのコマンド履歴に残りません。

たとえば、次に示す lmvutil コマンドは、domainEast\adminEast ユーザーにログインして、Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化します。

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --initialize
```

認証オプションは、--help および --verbose を除くすべての lmvutil コマンド オプションを指定して使用する必要があります。

lmvutil コマンドの出力

lmvutil コマンドは、操作が成功すると 0 を返し、失敗すると操作の失敗に固有の 0 以外のコードを返します。

lmvutil コマンドは標準エラー出力にエラー メッセージを書き込みます。操作で出力が生成されたり、--verbose オプションを使用して詳細なログ記録が有効になっていると、lmvutil コマンドは標準出力に出力を書き込みます。

lmvutil コマンドは英語 (US) の出力のみを生成します。

lmvutil コマンドのオプション

実行する操作を指定するには、lmvutil コマンドのコマンド オプションを使用します。どのオプションも 2 つのハイフン (--) の後に指定します。

lmvutil コマンドの認証オプションについては、[lmvutil コマンドでの認証](#)を参照してください。

表 5-2. lmvutil コマンドのオプション

オプション	説明
--activatePendingCertificate	保留中の SSL 証明書をアクティベーションします。 保留中の証明書のアクティベーション を参照してください。
--addGroupEntitlement	ユーザー グループをグローバル資格に関連付けます。 グローバル資格へのユーザーまたはグループの追加 を参照してください。
--addPoolAssociation	グローバル デスクトップ資格にデスクトップ プールに関連付けたり、グローバル アプリケーション資格にアプリケーション プールに関連付けたりします。 グローバル資格へのプールの追加 を参照してください。
--addUserEntitlement	ユーザーをグローバル資格に関連付けます。 グローバル資格へのユーザーまたはグループの追加 を参照してください。
--assignPodToSite	ポッドをサイトに割り当てます。 サイトへのポッドの割り当て を参照してください。
--createGlobalApplicationEntitlement	グローバル アプリケーション資格を作成します。 グローバル資格の作成 を参照してください。
--createGlobalEntitlement	グローバル デスクトップ資格を作成します。 グローバル資格の作成 を参照してください。
--createSite	サイトを作成します。 サイトの作成 を参照してください。
--createGroupHomeSite	ユーザー グループをホーム サイトに関連付けます。 ホーム サイトの構成 を参照してください。
--createPendingCertificate	保留された SSL 証明書を作成します。 保留中の証明書の作成 を参照してください。
--createUserHomeSite	ユーザーをホーム サイトに関連付けます。 ホーム サイトの構成 を参照してください。
--deleteGlobalApplicationEntitlement	グローバル アプリケーション資格を削除します。 グローバル資格の削除 を参照してください。
--deleteGlobalEntitlement	グローバル デスクトップ資格を削除します。 グローバル資格の削除 を参照してください。
--deleteSite	サイトを削除します。 サイトの削除 を参照してください。
--deleteGroupHomeSite	ユーザー グループとホーム サイト間の関連付けを削除します。 ホーム サイトの削除 を参照してください。
--deleteUserHomeSite	ユーザーとホーム サイト間の関連付けを削除します。 ホーム サイトの削除 を参照してください。
--editSite	サイトの名前または説明を変更します。 サイト名前または説明の変更 を参照してください。
--ejectPod	ポッド フェデレーションから使用不可能なポッドを削除します。 ポッド フェデレーションからのポッドの削除 を参照してください。
--help	lmvutil コマンドのオプションを一覧表示します。
--initialize	Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化します。 Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化 を参照してください。
--join	ポッドをポッド フェデレーションに参加させます。 ポッド フェデレーションへのポッドの参加 を参照してください。

オプション	説明
--listAssociatedPools	グローバル デスクトップ資格に関連付けられているデスクトップ プールまたはグローバル アプリケーション資格に関連付けられているアプリケーション プールを一覧表示します。 グローバル資格のプールの一覧表示 を参照してください。
--listEntitlements	ユーザーまたはユーザー グループとグローバル資格間の関連付けを一覧表示します。 グローバル資格のユーザーまたはグループの一覧表示
--listGlobalApplicationEntitlements	すべてのグローバル アプリケーション資格を一覧表示します。 グローバル資格の一覧表示 を参照してください。
--listGlobalEntitlements	すべてのグローバル デスクトップ資格を一覧表示します。 グローバル資格の一覧表示 を参照してください。
--listPods	Cloud Pod アーキテクチャ トポロジのポッドを一覧表示します。 Cloud Pod アーキテクチャ トポロジでのポッドまたはサイトの一覧表示 を参照してください。
--listSites	Cloud Pod アーキテクチャ トポロジのサイトを一覧表示します。 Cloud Pod アーキテクチャ トポロジでのポッドまたはサイトの一覧表示 を参照してください。
--listUserAssignments	ユーザー専用のデスクトップ ポッドの割り当てとグローバル資格の組み合わせを一覧表示します。 デスクトップ プールの専用割り当ての一覧表示 を参照してください。
--removePoolAssociation	デスクトップ プールとグローバル資格間の関連付けを削除します。 グローバル資格からのプールの削除 を参照してください。
--resolveUserHomeSite	ユーザーの有効なホーム サイトを表示します。 ユーザーの有効なホーム サイトの一覧表示 を参照してください。
--removeGroupEntitlement	グローバル資格からユーザー グループを削除します。 グローバル資格からのユーザーまたはグループの削除 を参照してください。
--removeUserEntitlement	グローバル資格からユーザーを削除します。 グローバル資格からのユーザーまたはグループの削除 を参照してください。
--showGroupHomeSites	グループのホーム サイトをすべて表示します。 ユーザーまたはグループのホーム サイトの一覧表示 を参照してください。
--showUserHomeSites	ユーザーのホーム サイトをすべて表示します。 ユーザーまたはグループのホーム サイトの一覧表示 を参照してください。
--uninitialize	Cloud Pod アーキテクチャ機能を無効にします。 Cloud Pod アーキテクチャ機能の無効化 を参照してください。
--unjoin	ポッド フェデレーションから使用可能なポッドを削除します。 ポッド フェデレーションからのポッドの削除 を参照してください。
--updateGlobalApplicationEntitlement	グローバル アプリケーション資格を変更します。 グローバル資格の変更 を参照してください。
--updateGlobalEntitlement	グローバル デスクトップ資格を変更します。 グローバル資格の変更 を参照してください。

オプション	説明
<code>--updatePod</code>	ポッドの名前または説明を変更します。 ポッド名または説明の変更 を参照してください。
<code>--verbose</code>	詳細ログを有効にします。このオプションは、詳細なコマンド出力を取得する他のオプションに追加できます。 <code>lmvutil</code> コマンドで、標準出力への書き込みが行われます。

Cloud Pod アーキテクチャ機能の初期化

Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化するには `--initialize` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。Cloud Pod アーキテクチャ機能を初期化すると、Horizon はポッドの各接続サーバ インスタンスでグローバル データ レイヤーを設定して、VIPA 通信チャンネルを構成します。

構文

```
lmvutil --initialize
```

使用上の注意

このコマンドは、ポッド内のいずれかの接続サーバ インスタンスで 1 回のみ実行します。このコマンドは、ポッド内のどの接続サーバ インスタンスでも実行できます。追加のポッドに対してこのコマンドを実行する必要はありません。他のすべてのポッドは初期化されたポッドに参加します。

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能がすでに初期化されている場合、またはコマンドが操作を完了できない場合に、エラー メッセージを返します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --initialize
```

Cloud Pod アーキテクチャ機能の無効化

Cloud Pod アーキテクチャ機能を無効にするには `--uninitialize` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --uninitialize
```

使用上の注意

このコマンドを実行する前に、`--unjoin` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行し、ポッド フェデレーションの他のポッドを削除します。

このコマンドは、ポッド内の 1 つの接続サーバ インスタンスに対してのみ実行します。このコマンドは、ポッド内のどの接続サーバ インスタンスでも実行できます。ポッド フェデレーションに複数のポッドが含まれる場合、1 つのポッドに対してのみこのコマンドを実行する必要があります。

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されない場合、コマンドがポッドを検出または更新できない場合、またはポッド フェデレーションが他のポッドを含んでいる場合に、エラー メッセージを返します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --uninitialize
```

ポッド フェデレーションの管理

ポッド フェデレーションの構成と変更には、lmvutil コマンドのオプションを使用できます。

■ ポッド フェデレーションへのポッドの参加

ポッドをポッド フェデレーションに参加させるには `--join` オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

■ ポッド フェデレーションからのポッドの削除

ポッド フェデレーションからポッドを削除するには、`--unjoin` または `--ejectPod` オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

■ ポッド名または説明の変更

ポッドの名前または説明は、`--updatePod` オプションを指定して lmvutil コマンドを実行することによって更新または変更できます。

ポッド フェデレーションへのポッドの参加

ポッドをポッド フェデレーションに参加させるには `--join` オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --join joinServer serveraddress --userName domain\username --password password
```

使用上の注意

このコマンドは、ポッド フェデレーションに参加させるポッドごとに実行する必要があります。このコマンドは、ポッド内のどの接続サーバ インスタンスでも実行できます。

このコマンドは、無効な認証情報を入力した場合、指定した接続サーバ インスタンスが存在しない場合、ポッド フェデレーションが指定したサーバに存在しない場合、またはコマンドが操作を完了できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

ポッドをポッド フェデレーションに参加させるときは、次のいくつかのオプションを指定する必要があります。

表 5-3. ポッドをポッド フェデレーションに参加させるオプション

オプション	説明
--joinServer	初期化された任意のポッド、またはすでにポッド フェデレーションの一部になっている任意のポッド内の、任意の接続サーバインスタンスの DNS 名または IP アドレス。
--userName	すでに初期化されたポッドの Horizon 管理者ユーザー名。フォーマット <i>domain\username</i> を使用します。
--password	--userName オプションで指定されたユーザーのパスワード。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --join
--joinServer 123.456.789.1 --userName domainCentral\adminCentral --password secret123
```

ポッド フェデレーションからのポッドの削除

ポッド フェデレーションからポッドを削除するには、--unjoin または --ejectPod オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --unjoin
```

```
lmvutil --ejectPod --pod pod
```

使用上の注意

ポッド フェデレーションからポッドを削除するには、--unjoin オプションを使用します。このコマンドは、ポッド内のどの接続サーバインスタンスでも実行できます。

使用できないポッドをポッド フェデレーションから削除するには、--ejectPod オプションを使用します。ポッドが使用できなくなるのは、たとえば、ハードウェアの障害が発生したときです。この操作はポッド フェデレーション内のどのポッドでも実行できます。

重要: ほとんどの状況では、--unjoin オプションを使用することによってポッド フェデレーションからポッドを削除することをお勧めします。

これらのコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、ポッドがポッド フェデレーションに参加していない場合、またはコマンドが指定した操作を実行できない場合にエラー メッセージを返します。

オプション

--ejectPod オプションを使用する場合は、--pod オプションを使用して、ポッド フェデレーションから削除するポッドを特定します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --unjoin
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --ejectPod
--pod "East Pod 1"
```

ポッド名または説明の変更

ポッドの名前または説明は、`--updatePod` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行することによって更新または変更できます。

構文

```
lmvutil --updatePod --podName podname [--newPodName podname] [--description text]
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、またはコマンドがポッドを検出または更新できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

ポッドの名前または説明を更新するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-4. ポッドの名前または説明を構成するためのオプション

オプション	説明
<code>--podName</code>	更新するポッドの名前。
<code>--newPodName</code>	(オプション) ポッドの新しい名前。ポッド名には 1 文字から 64 文字が使用できます。
<code>--description</code>	(オプション) サイトの説明。説明には 1 文字から 1024 文字が使用できます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--updatePod --podName "East Pod 1" --newPodName "East Pod 2"
```

サイトの管理

`lmvutil` コマンド オプションを使用して、Cloud Pod アーキテクチャ サイトを作成、変更および削除できます。サイトとはポッドのグループです。

■ サイトの作成

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジ内にサイトを作成するには `--createSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ サイトへのポッドの割り当て

サイトにポッドを割り当てるには `--assignPodToSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ サイト名前または説明の変更

サイトの名前または説明を編集するには `--editSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ サイトの削除

サイトを削除するには `--deleteSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

サイトの作成

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジ内にサイトを作成するには `--createSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --createSite --siteName sitename [--description text]
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、指定したサイトがすでに存在する場合、またはサイトを作成できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

サイトを作成するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-5. サイトを作成するためのオプション

オプション	説明
<code>--siteName</code>	新しいサイトの名前。サイト名には 1 文字から 64 文字が使用できます。
<code>--description</code>	(オプション) サイトの説明。説明には 1 文字から 1024 文字が使用できます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --createSite
--siteName "Eastern Region"
```

サイトへのポッドの割り当て

サイトにポッドを割り当てるには `--assignPodToSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --assignPodToSite --podName podname --siteName sitename
```

使用上の注意

サイトにポッドを割り当てるためには、まずサイトを作成する必要があります。[サイトの作成](#)を参照してください。

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、指定されたポッドまたはサイトが見つからない場合、またはサイトにポッドを割り当てることができない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

サイトにポッドを割り当てるときには、これらのオプションを指定する必要があります。

表 5-6. サイトにポッドを割り当てるためのオプション

オプション	説明
--podName	サイトに割り当てるポッドの名前。
--siteName	サイトの名前。

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジ内のポッドの名前は、--listPods オプションを指定して lmvutil コマンドを実行することによって一覧表示できます。[Cloud Pod アーキテクチャ トポロジでのポッドまたはサイトの一覧表示](#)を参照してください。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--assignPodToSite --podName "East Pod 1" --siteName "Eastern Region"
```

サイト名前または説明の変更

サイトの名前または説明を編集するには --editSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --editSite --siteName sitename [--newSiteName sitename] [--description text]
```

使用上の注意

このコマンドは、指定したサイトが存在しない場合、またはコマンドでサイトを検索したり更新したりできない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

サイトの名前または説明を変更するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-7. サイトの名前または説明を変更するためのオプション

オプション	説明
--siteName	編集するサイトの名前。
--newSiteName	(オプション) サイトの新しい名前。サイト名には 1 文字から 64 文字が使用できます。
--description	(オプション) サイトの説明。説明には 1 文字から 1024 文字が使用できます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --editSite
--siteName "Eastern Region" --newSiteName "Western Region"
```

サイトの削除

サイトを削除するには `--deleteSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --deleteSite --sitename sitename
```

使用上の注意

このコマンドは、指定したサイトが存在しない場合、またはコマンドでサイトを検出したり削除したりできない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

削除するサイトの名前を指定するには、`--sitename` オプションを使用します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--deleteSite --sitename "Eastern Region"
```

グローバル資格の管理

`lmvutil` コマンド オプションを使用して、Cloud Pod アーキテクチャ環境のグローバル デスクトップ資格およびグローバル アプリケーション資格を作成、変更、一覧表示することができます。

■ グローバル資格の作成

グローバル デスクトップ資格を作成するには、`--createGlobalEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グローバル アプリケーション資格を作成するには、`--createGlobalApplicationEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ グローバル資格の変更

グローバル デスクトップ資格を変更するには、`--updateGlobalEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グローバル アプリケーション資格を変更するには、`--updateGlobalApplicationEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ グローバル資格の削除

グローバル デスクトップ資格を削除するには、`--deleteGlobalEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グローバル アプリケーション資格を削除するには、`--deleteGlobalApplicationEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ グローバル資格へのプールの追加

グローバル デスクトップ資格にデスクトップ プールを追加したり、グローバル アプリケーション資格にアプリケーション プールを追加したりするには、`--addPoolAssociation` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ グローバル資格からのプールの削除

グローバル デスクトップ資格からデスクトップ プールを削除したり、グローバル アプリケーション資格からアプリケーション プールを削除したりするには、`--removePoolAssociation` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ グローバル資格へのユーザーまたはグループの追加

ユーザーをグローバル資格に追加するには、`--addUserEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グループをグローバル資格に追加するには、`--addGroupEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ グローバル資格からのユーザーまたはグループの削除

ユーザーをグローバル資格から削除するには、`--removeUserEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グループをグローバル資格から削除するには、`--removeGroupEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

グローバル資格の作成

グローバル デスクトップ資格を作成するには、`--createGlobalEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グローバル アプリケーション資格を作成するには、`--createGlobalApplicationEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

グローバル資格では、デスクトップおよびアプリケーションがポッド フェデレーションのどこにあるかにかかわらず、ユーザーとそのデスクトップおよびアプリケーション間のリンクを提供します。また、グローバル資格には、Cloud Pod アーキテクチャ機能がデスクトップおよびアプリケーションを資格のあるユーザーに割り当てる方法を決定するポリシーも含まれます。

構文

```
lmvutil --createGlobalEntitlement --entitlementName name --scope scope
{--isDedicated | --isFloating} [--description text] [--disabled]
[--fromHome] [--multipleSessionAutoClean] [--requireHomeSite] [--defaultProtocol value]
[--preventProtocolOverride] [--allowReset] [--htmlAccess] [--multipleSessionsPerUser]
[--tags tags] [--categoryFolder foldername] [--clientRestrictions] [--collaboration]
```

```
lmvutil --createGlobalApplicationEntitlement --entitlementName name --scope scope
[--description text] [--disabled] [--fromHome] [--multipleSessionAutoClean]
[--requireHomeSite] [--defaultProtocol value] [--preventProtocolOverride] [--htmlAccess]
[--preLaunch] [--tags tags] [--categoryFolder foldername]
[--clientRestrictions]
```

使用上の注意

これらのコマンドは、ポッド フェデレーションにあるどの接続サービンスタンスでも使用できます。Cloud Pod アーキテクチャ機能は、新しいデータをグローバル データ レイヤーに格納し、ポッド フェデレーション内のすべてのポッドでそのデータを複製します。

これらのコマンドは、グローバル資格がすでに存在する場合、範囲が無効な場合、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、またはグローバル資格を作成できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

グローバル資格を作成するときには、これらのオプションを指定できます。一部のオプションは、グローバル デスクトップ資格にのみ適用されます。

表 5-8. グローバル資格作成時のオプション

オプション	説明
--entitlementName	グローバル資格の名前。名前には 1 文字から 64 文字が使用できます。グローバル資格の名前は、資格のあるユーザーの Horizon Client のデスクトップおよびアプリケーション リストに表示されます。
--scope	グローバル資格の範囲。有効な値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ANY。ポッド フェデレーションの任意のポッドで Horizon がリソースを探します。 ■ SITE。ユーザーが接続しているポッドと同じサイト内のポッドでのみ Horizon がリソースを探します。 ■ LOCAL。ユーザーが接続しているポッドでのみ Horizon がリソースを探します。
--isDedicated	専用デスクトップ資格を作成します。専用デスクトップ資格には専用デスクトップ プールのみを含めることができます。フローティング デスクトップ資格を作成するには、--isFloating オプションを使用します。グローバル デスクトップ資格は、専用またはフローティングのいずれかになります。--isDedicated オプションを --multipleSessionAutoClean オプションと一緒に指定することはできません。グローバル デスクトップ資格にのみ適用されます。
--isFloating	フローティング デスクトップ資格を作成します。フローティング デスクトップ資格にはフローティング デスクトップ プールのみを含めることができます。専用デスクトップ資格を作成するには、--isDedicated オプションを指定します。グローバル デスクトップ資格は、フローティングまたは専用のいずれかになります。グローバル デスクトップ資格にのみ適用されます。
--disabled	(オプション) グローバル資格を無効な状態で作成します。
--description	(オプション) グローバル資格の説明。説明には 1 文字から 1024 文字が使用できます。
--fromHome	(オプション) ユーザーにホーム サイトがある場合、ユーザーのホーム サイトから Horizon がリソースを探し始めます。ユーザーにホーム サイトがない場合、ユーザーが現在接続しているサイトで Horizon がリソースを探し始めます。

オプション	説明
<code>--multipleSessionAutoClean</code>	<p>(オプション) 同じ資格の余剰ユーザー セッションをログオフします。複数のセッションは、セッションを含むポッドがオフラインになり、ユーザーが再度ログインして別のセッションを開始し、問題のポッドが元のセッションでオンラインに戻るときに発生する可能性があります。</p> <p>複数のセッションが発生すると、セッションを選択するように指示するメッセージが Horizon Client によって表示されます。このオプションは、ユーザーが選択しないセッションに何が発生するかを決定します。</p> <p>このオプションを指定しない場合、ユーザーは Horizon Client でログオフするか、セッションを起動してログオフして、自身の余剰セッションを手動で終了する必要があります。</p>
<code>--requireHomeSite</code>	<p>(オプション) ユーザーにホーム サイトがある場合のみグローバル資格が使用可能になります。このオプションは <code>--fromHome</code> オプションも指定されたときのみ適用可能です。</p>
<code>--defaultProtocol</code>	<p>(オプション) グローバル資格におけるデスクトップまたはアプリケーションのデフォルト表示プロトコルを指定します。グローバル デスクトップ資格の有効値は RDP、PCOIP、および BLAST であり、グローバル アプリケーション資格の有効値は PCOIP および BLAST です。</p>
<code>--preventProtocolOverride</code>	<p>(オプション) デフォルトの表示プロトコルをユーザーがオーバーライドできなくなります。</p>
<code>--allowReset</code>	<p>(オプション) デスクトップのリセットをユーザーに許可します。グローバル デスクトップ資格にのみ適用されます。</p>
<code>--htmlAccess</code>	<p>(オプション) HTML Access ポリシーを有効にします。これにより、HTML Access 機能を使用してグローバル資格のリソースにアクセスできます。HTML Access を使用すると、エンド ユーザーは Web ブラウザを使用してリモート リソースにアクセスできるため、ローカル システムにクライアント ソフトウェアをインストールする必要がありません。</p>
<code>--multipleSessionsPerUser</code>	<p>(オプション) ユーザーの複数セッションに関するポリシーを有効にします。これにより、複数のクライアント デバイスから個別のデスクトップ セッションを開始できます。複数のクライアント デバイスからグローバル デスクトップ資格に接続するユーザーは、複数のデスクトップ セッションを受け取ります。既存のデスクトップ セッションに再接続するには、そのセッションが開始されたのと同じデバイスを使用する必要があります。このポリシーを有効にしないと、使用するクライアント デバイスに関係なく、ユーザーは常に既存のデスクトップ セッションに再接続します。フローティング デスクトップ資格にのみ適用されます。</p>
<code>--preLaunch</code>	<p>(オプション) 事前起動ポリシーを有効にします。これにより、ユーザーが Horizon Client でグローバル アプリケーション資格を開く前に、アプリケーション セッションが起動します。事前起動ポリシーを有効にすると、ユーザーはグローバル アプリケーション資格をより迅速に起動できます。グローバル アプリケーション資格のすべてのアプリケーション プールが、セッションの事前起動機能をサポートし、すべてのファームで事前起動セッションのタイムアウトが同じである必要があります。</p>
<code>--tags</code>	<p>(オプション) 接続サーバーインスタンスからグローバル資格へのアクセスを制限する 1 つ以上のタグを指定します。複数のタグを指定するには、複数のタグ名をカンマまたはセミコロンで区切り、引用符を付けたリストを入力します。詳細については、グローバル資格に対する接続サーバー制限の実装を参照してください。</p>
<code>--categoryFolder</code>	<p>(オプション) Windows クライアント デバイスのグローバル資格に、スタート メニューのショートカットを含むカテゴリ フォルダの名前を指定します。詳細については、グローバル資格の Windows スタート メニュー ショートカットの設定を参照してください。</p>

オプション	説明
<code>--clientRestrictions</code>	(オプション) クライアントの制限ポリシーを有効にし、特定のクライアント コンピュータに対するグローバル資格へのアクセスを制限します。詳細については、 グローバル資格に対するクライアント制限の実装 を参照してください。
<code>--collaboration</code>	(オプション) セッション共同作業ポリシーを有効にします。これにより、リモート デスクトップ セッションのユーザーが自身のセッションに他のユーザーを招待できます。グローバル デスクトップ資格内のすべてのデスクトップ プールが、セッション共同作業機能をサポートしている必要があります。グローバル デスクトップ資格にのみ適用されます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --createGlobalEntitlement --entitlementName "Windows 8 Desktop" --scope LOCAL --isDedicated
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --createGlobalApplicationEntitlement --entitlementName "Microsoft Office PowerPoint" --scope LOCAL
```

グローバル資格の変更

グローバル デスクトップ資格を変更するには、`--updateGlobalEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グローバル アプリケーション資格を変更するには、`--updateGlobalApplicationEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --updateGlobalEntitlement --entitlementName name [--description text]
[--disabled] [--enabled] [--fromHome] [--disableFromHome] [--multipleSessionAutoClean]
[--disableMultipleSessionAutoClean] [--multipleSessionsPerUser]
[--disableMultipleSessionsPerUser] [--requireHomeSite] [--disableRequireHomeSite]
[--defaultProtocol value] [--scope scope] [--htmlAccess] [--disableHtmlAccess]
[--tags tags] [--notags] [--categoryFolder foldername] [--disableCategoryFolder]
[--clientRestrictions] [--disableClientRestrictions] [--collaboration]
[--disableCollaboration]
```

```
lmvutil --updateGlobalApplicationEntitlement --entitlementName name [--description text]
[--disabled] [--enabled] [--fromHome] [--disableFromHome] [--multipleSessionAutoClean]
[--disableMultipleSessionAutoClean] [--requireHomeSite] [--disableRequireHomeSite]
[--defaultProtocol value] [--scope scope] [--htmlAccess] [--disableHtmlAccess]
[--appVersion value] [--appPublisher value] [--appPath value] [--tags tags] [--notags]
[--preLaunch] [--disablePreLaunch] [--categoryFolder foldername] [--disableCategoryFolder]
[--clientRestrictions] [--disableClientRestrictions]
```

使用上の注意

これらのコマンドは、ポッド フェデレーションにあるどの接続サービンスタンスでも使用できます。Cloud Pod アーキテクチャ機能は、新しいデータをグローバル データ レイヤーに格納し、ポッド フェデレーション内のすべてのポッドでそのデータを複製します。

これらのコマンドは、グローバル資格が存在しない場合、範囲が無効な場合、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、またはグローバル資格を更新できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

グローバル資格を変更するときには、これらのオプションを指定できます。一部のオプションは、グローバル デスクトップ資格にのみ、またはグローバル アプリケーション資格にのみ適用されます。

表 5-9. グローバル資格変更時のオプション

オプション	説明
<code>--entitlementName</code>	変更するグローバル資格の名前。
<code>--scope</code>	グローバル資格の範囲。有効な値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ANY。ポッド フェデレーションの任意のポッドで Horizon がリソースを探します。 ■ SITE。ユーザーが接続しているポッドと同じサイト内のポッドでのみ Horizon がリソースを探します。 ■ LOCAL。ユーザーが接続しているポッドでのみ Horizon がリソースを探します。
<code>--description</code>	(オプション) グローバル資格の説明。説明には 1 文字から 1024 文字が使用できます。
<code>--disabled</code>	(オプション) 以前に有効化されたグローバル資格を無効化します。
<code>--enabled</code>	(オプション) 以前に無効化されたグローバル資格を有効化します。
<code>--fromHome</code>	(オプション) ユーザーにホーム サイトがある場合、ユーザーのホーム サイトから Horizon がリソースを探し始めます。ユーザーにホーム サイトがない場合、ユーザーが現在接続しているサイトで Horizon がリソースを探し始めます。
<code>--disableFromHome</code>	(オプション) グローバル資格で <code>--fromHome</code> 機能を無効にします。
<code>--multipleSessionAutoClean</code>	(オプション) 同じ資格の余剰ユーザー セッションをログオフします。複数のセッションは、セッションを含むポッドがオフラインになり、ユーザーが再度ログインして別のセッションを開始し、問題のポッドが元のセッションでオンラインに戻るときに発生する可能性があります。 <p>複数のセッションが発生すると、セッションを選択するように指示するメッセージが Horizon Client によって表示されます。このオプションは、ユーザーが選択しないセッションに何が発生するかを決定します。</p> <p>このオプションを指定しない場合、ユーザーは Horizon Client でログオフするか、セッションを起動してログオフして、自身の余剰セッションを手動で終了する必要があります。</p>
<code>--disableMultipleSessionAutoClean</code>	(オプション) グローバル資格で <code>--multipleSessionAutoClean</code> 機能を無効にします。
<code>--multipleSessionsPerUser</code>	(オプション) ユーザーの複数セッションに関するポリシーを有効にします。これにより、複数のクライアント デバイスから個別のデスクトップ セッションを開始できます。複数のクライアント デバイスからグローバル デスクトップ資格に接続するユーザーは、複数のデスクトップ セッションを受け取ります。既存のデスクトップ セッションに再接続するには、そのセッションが開始されたのと同じデバイスを使用する必要があります。このポリシーを有効にしないと、使用するクライアント デバイスに関係なく、ユーザーは常に既存のデスクトップ セッションに再接続します。フローティング デスクトップ資格にのみ適用されます。
<code>--disableMultipleSessionsPerUser</code>	(オプション) グローバル デスクトップ資格でユーザーの複数セッションに関するポリシーを無効にします。
<code>--requireHomeSite</code>	(オプション) ユーザーにホーム サイトがある場合のみグローバル資格が使用可能になります。このオプションは <code>--fromHome</code> オプションも指定されたときのみ適用可能です。

オプション	説明
--disableRequireHomeSite	(オプション) グローバル資格で --requireHomeSite 機能を無効にします。
--defaultProtocol	(オプション) グローバル資格におけるデスクトップまたはアプリケーションのデフォルト表示プロトコルを指定します。グローバル デスクトップ資格の有効値は RDP、PCOIP、および BLAST であり、グローバル アプリケーション資格の有効値は PCOIP および BLAST です。
--htmlAccess	(オプション) HTML Access ポリシーを有効にします。これにより、HTML Access 機能を使用してグローバル資格のリソースにアクセスできます。HTML Access を使用すると、エンド ユーザーは Web ブラウザを使用してリモート リソースにアクセスできるため、ローカル システムにクライアント ソフトウェアをインストールする必要がありません。
--disableHtmlAccess	(オプション) グローバル資格で HTML Access ポリシーを無効にします。
--appVersion	(オプション) アプリケーションのバージョン。 グローバル アプリケーション資格にのみ適用されます。
--appPublisher	(オプション) アプリケーションのパブリッシャー。 グローバル アプリケーション資格にのみ適用されます。
--appPath	(オプション) C:\Program Files\app1.exe などのアプリケーションのフル パス名。 グローバル アプリケーション資格にのみ適用されます。
--tags	(オプション) 接続サーバ インスタンスからグローバル資格へのアクセスを制限する 1 つ以上のタグを指定します。複数のタグを指定するには、複数のタグ名をカンマまたはセミコロンで区切り、引用符を付けたリストを入力します。詳細については、 グローバル資格に対する接続サーバ制限の実装 を参照してください。
--notags	(オプション) グローバル資格からタグを削除します。
--preLaunch	(オプション) 事前起動ポリシーを有効にします。これにより、ユーザーが Horizon Client でグローバル アプリケーション資格を開く前に、アプリケーション セッションが起動します。事前起動ポリシーを有効にすると、ユーザーはグローバル アプリケーション資格をより迅速に起動できます。グローバル アプリケーション資格のすべてのアプリケーション プールが、セッションの事前起動機能をサポートし、すべてのファームで事前起動セッションのタイムアウトが同じである必要があります。
--disablePreLaunch	(オプション) グローバル アプリケーション資格で事前起動ポリシーを無効にします。
--categoryFolder	(オプション) Windows クライアント デバイスのグローバル資格に、スタート メニューのショートカットを含むカテゴリ フォルダの名前を指定します。詳細については、 グローバル資格の Windows スタート メニュー ショートカットの設定 を参照してください。
--disableCategoryFolder	(オプション) グローバル資格のカテゴリ フォルダを削除します。
--clientRestrictions	(オプション) クライアントの制限ポリシーを有効にし、特定のクライアント コンピュータに対するグローバル資格へのアクセスを制限します。詳細については、 グローバル資格に対するクライアント制限の実装 を参照してください。
--disableClientRestrictions	(オプション) グローバル資格でクライアントの制限ポリシーを無効にします。

オプション	説明
<code>--collaboration</code>	(オプション) セッション共同作業ポリシーを有効にします。これにより、リモート デスクトップ セッションのユーザーが自身のセッションに他のユーザーを招待できます。グローバル デスクトップ資格内のすべてのデスクトップ プールが、セッション共同作業機能をサポートしている必要があります。グローバル デスクトップ資格にのみ適用されます。
<code>--disableCollaboration</code>	(オプション) グローバル デスクトップ資格でセッション共同作業ポリシーを無効にします。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --updateGlobalEntitlement --entitlementName "Windows 8 Desktop" --scope ANY --isDedicated
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--updateGlobalApplicationEntitlement --entitlementName "Microsoft Office PowerPoint" --scope ANY
```

グローバル資格の削除

グローバル デスクトップ資格を削除するには、`--deleteGlobalEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グローバル アプリケーション資格を削除するには、`--deleteGlobalApplicationEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --deleteGlobalEntitlement --entitlementName name
```

```
lmvutil --deleteGlobalApplicationEntitlement --entitlementName name
```

コマンドの使用方法

指定したグローバル資格が存在しない場合、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、またはコマンドでグローバル資格を削除できない場合は、これらのコマンドによってエラー メッセージが返されます。

オプション

削除するグローバル資格の名前を指定するには、`--entitlementName` オプションを使用します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--deleteGlobalEntitlement --entitlementName "Windows 8 Desktop"
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--deleteGlobalApplicationEntitlement --entitlementName "Microsoft Office PowerPoint"
```

グローバル資格へのプールの追加

グローバル デスクトップ資格にデスクトップ プールを追加したり、グローバル アプリケーション資格にアプリケーション プールを追加したりするには、`--addPoolAssociation` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --addPoolAssociation --entitlementName name --poolId poolid
```

使用上の注意

このコマンドは、プールを含むポッド内の接続サーバインスタンスで使用する必要があります。たとえば、グローバル デスクトップ資格に関連付けるデスクトップ プールが `pod1` に含まれる場合、`pod1` に含まれる接続サーバインスタンスでコマンドを実行する必要があります。

グローバル資格の一部にするプールごとにこのコマンドを繰り返します。個々のプールは、1 つのグローバル資格にのみ追加することができます。

重要: グローバル アプリケーション資格に複数のアプリケーション プールを追加する場合、同じアプリケーションを追加する必要があります。たとえば、電卓と Microsoft Office PowerPoint を同じグローバル アプリケーション資格に追加しないでください。異なるアプリケーションを追加すると、期待どおりの結果を得ることができなくなり、資格のあるユーザーにその都度異なるアプリケーションが提供されます。

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、指定した資格が存在しない場合、プールが指定した資格にすでに関連付けられている場合、プールが存在しない場合、またはコマンドでプールをグローバル資格に追加できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

プールをグローバル資格に追加するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-10. グローバル資格にプールを追加するためのオプション

オプション	説明
<code>--entitlementName</code>	グローバル資格の名前。
<code>--poolId</code>	グローバル資格に追加するプールの ID。プール ID はポッドに表示されるプール名と一致する必要があります。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --addPoolAssociation
--entitlementName "Windows 8 Desktop" --poolId "Windows 8 Desktop Pool A"
```

グローバル資格からのプールの削除

グローバル デスクトップ資格からデスクトップ プールを削除したり、グローバル アプリケーション資格からアプリケーション プールを削除したりするには、`--removePoolAssociation` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --removePoolAssociation --entitlementName name --poolId poolid
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、指定したグローバル資格またはプールが存在しない場合、またはコマンドでプールをグローバル資格から削除できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

プールをグローバル資格から削除するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-11. グローバル資格からのプールの削除のオプション

オプション	説明
<code>--entitlementName</code>	グローバル資格の名前。
<code>--poolId</code>	グローバル資格から削除するプールの ID。プール ID はポッドに表示されるプール名と一致する必要があります。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--removePoolAssociation --entitlementName "Windows 8 Desktop" --poolId "Windows 8 Desktop Pool A"
```

グローバル資格へのユーザーまたはグループの追加

ユーザーをグローバル資格に追加するには、`--addUserEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。グループをグローバル資格に追加するには、`--addGroupEntitlement` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --addUserEntitlement --userName domain\username --entitlementName name
```

```
lmvutil --addGroupEntitlement --groupName domain\groupname --entitlementName name
```

使用上の注意

グローバル資格に追加するユーザーまたはグループごとに、これらのコマンドを繰り返します。

指定した資格、ユーザー、またはグループが存在しないか、コマンドがその資格にユーザーまたはグループを追加できない場合は、これらのコマンドによってエラー メッセージが返されます。

オプション

グローバル資格にユーザーまたはグループを追加する場合には、これらのオプションを指定できます。

表 5-12. グローバル資格にユーザーまたはグループを追加する場合のオプション

オプション	説明
--userName	グローバル資格に追加するユーザーの名前。フォーマット <i>domain\username</i> を使用します。
--groupName	グローバル資格に追加するグループの名前。フォーマット <i>domain\groupname</i> を使用します。
--entitlementName	ユーザーまたはグループを追加するグローバル資格の名前。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --addUserEntitlement
--userName domainCentral\adminCentral --entitlementName "Agent Sales"
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--addGroupEntitlement --groupName domainCentral\adminCentralGroup --entitlementName "Agent Sales"
```

グローバル資格からのユーザーまたはグループの削除

ユーザーをグローバル資格から削除するには、--removeUserEntitlement オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。グループをグローバル資格から削除するには、--removeGroupEntitlement オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --removeUserEntitlement --userName domain\username --entitlementName name
```

```
lmvutil --removeGroupEntitlement --groupName domain\groupname --entitlementName name
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、ユーザー名、グループ名、または資格が存在しない場合、または資格からユーザーまたはグループを削除できない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

グローバル資格からユーザーまたはグループを削除するときには、これらのオプションを指定する必要があります。

表 5-13. グローバル資格からユーザーまたはグループを削除するオプション

オプション	説明
--userName	グローバル資格から削除するユーザーの名前。フォーマット <i>domain\username</i> を使用します。
--groupName	グローバル資格から削除するグループの名前。フォーマット <i>domain\groupname</i> を使用します。
--entitlementName	ユーザーまたはグループを削除するグローバル資格の名前。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--removeUserEntitlement --userName domainCentral\adminCentral --entitlementName "Agent Sales"
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--removeGroupEntitlement --groupName domainCentral\adminCentralGroup --entitlementName "Agent Sales"
```

ホーム サイトの管理

lmvutil コマンド オプションを使用し、ホーム サイトを作成、変更、削除およびリストできます。

■ ホーム サイトの構成

ユーザーのホーム サイトを作成するには、--createUserHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。グループのホーム サイトを作成するには、--createGroupHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。また、これらのオプションを使用して、ホーム サイトとグローバル デスクトップ資格またはグローバル アプリケーション資格を関連付けることもできます。

■ ホーム サイトの削除

ユーザーとホーム サイト間の関連付けを削除するには、--deleteUserHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。グループとホーム サイト間の関連付けを削除するには、--deleteGroupHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

ホーム サイトの構成

ユーザーのホーム サイトを作成するには、--createUserHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。グループのホーム サイトを作成するには、--createGroupHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。また、これらのオプションを使用して、ホーム サイトとグローバル デスクトップ資格またはグローバル アプリケーション資格を関連付けることもできます。

構文

```
lmvutil --createUserHomeSite --userName domain\username --siteName name [--entitlementName name]
```

```
lmvutil --createGroupHomeSite --groupName domain\groupname --siteName name [--entitlementName name]
```

使用上の注意

サイトを作成してからでないと、ホーム サイトとして構成できません。[サイトの作成](#)を参照してください。

Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、指定したユーザーまたはグループが存在しない場合、指定したサイトが存在しない場合、指定した資格が存在しない場合、またはコマンドでホーム サイトを作成できない場合は、これらのコマンドによってエラー メッセージが返されます。

オプション

ユーザーまたはグループのホーム サイトを作成するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-14. ユーザーまたはグループのホーム サイトを作成するためのオプション

オプション	説明
--userName	ホーム サイトに関連付けるユーザーの名前。フォーマット <i>domain\username</i> を使用します。
--groupName	ホーム サイトに関連付けるグループの名前。フォーマット <i>domain\groupname</i> を使用します。
--siteName	ホーム サイトとしてユーザーまたはグループに関連付けるサイトの名前。
--entitlementName	(オプション) ホーム サイトに関連付けるグローバル デスクトップ資格またはグローバル アプリケーション資格の名前。指定したグローバル資格をユーザーが選択すると、ホーム サイトによりユーザー独自のホーム サイトが上書きされます。このオプションを指定しない場合、コマンドによってグローバル ユーザーまたはグループのホーム サイトが作成されます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --createUserHomeSite --userName domainEast\adminEast --siteName "Eastern Region" --entitlementName "Agent Sales"
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--createGroupHomeSite --groupName domainEast\adminEastGroup --siteName "Eastern Region"
--entitlementName "Agent Sales"
```

ホーム サイトの削除

ユーザーとホーム サイト間の関連付けを削除するには、--deleteUserHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。グループとホーム サイト間の関連付けを削除するには、--deleteGroupHomeSite オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --deleteUserHomeSite --userName domain\username [--entitlementName name]
```

```
lmvutil --deleteGroupHomeSite --groupName domain\groupname [--entitlementName name]
```

使用上の注意

これらのコマンドは、指定したユーザーまたはグループが存在しないか、指定したグローバル資格が存在しないか、コマンドがホーム サイト設定を削除できない場合、エラー メッセージを返します。

オプション

ユーザーまたはグループとホーム サイト間の関連付けを削除するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-15. ホーム サイトを削除するためのオプション

オプション	説明
--userName	ユーザーの名前。フォーマット <i>domain\username</i> を使用します。
--groupName	グループの名前。フォーマット <i>domain\groupname</i> を使用します。
--entitlementName	(オプション) グローバル デスクトップ資格またはグローバル アプリケーション資格の名前。このオプションは、指定したユーザーまたはグループのホーム サイトとグローバル資格間の関連付けを削除する場合に使用できます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --deleteUserHomeSite
--userName domainEast\adminEast
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--deleteGroupHomeSite --groupName domainEast\adminEastGroup
```

Cloud Pod アーキテクチャ構成の表示

lmvutil コマンド オプションを使用して、Cloud Pod アーキテクチャ構成に関する情報を一覧表示することができます。

■ グローバル資格の一覧表示

ポリシーおよび属性を含むすべてのグローバル デスクトップ資格に関する情報を表示するには、--listGlobalEntitlements オプションを指定して lmvutil コマンドを使用します。ポリシーおよび属性を含むすべてのグローバル アプリケーション資格に関する情報を表示するには、--listGlobalApplicationEntitlements オプションを指定して lmvutil コマンドを使用します。

■ グローバル資格のプールの一覧表示

特定のグローバル資格に関連付けられたデスクトップ プールまたはアプリケーション プールを一覧表示するには、--listAssociatedPools オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

■ グローバル資格のユーザーまたはグループの一覧表示

特定のグローバル資格に関連するすべてのユーザーまたはグループを一覧表示するには、--listEntitlements オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

■ ユーザーまたはグループのホーム サイトの一覧表示

特定のユーザー用に構成されたすべてのホーム サイトを一覧表示するには、--showUserHomeSites オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。特定のグループ用に構成されたすべてのホーム サイトを一覧表示するには、--showGroupHomeSites オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

■ ユーザーの有効なホーム サイトの一覧表示

特定のユーザーの有効なホーム サイトを特定するには `--resolveUserHomeSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。ホーム サイトは、ユーザーとグループ、およびグローバル資格に割り当てることができるため、ユーザーに複数のホーム サイトを構成することができます。

■ デスクトップ プールの専用割り当ての一覧表示

ユーザーとグローバル資格の組み合わせに対するデスクトップ プールの専用割り当てを一覧表示するには、`--listUserAssignments` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ Cloud Pod アーキテクチャ トポロジでのポッドまたはサイトの一覧表示

ポッド フェデレーション内のポッドを表示するには、`--listPods` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。ポッド フェデレーション内のサイトを表示するには、`--listSites` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

グローバル資格の一覧表示

ポリシーおよび属性を含むすべてのグローバル デスクトップ資格に関する情報を表示するには、`--listGlobalEntitlements` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを使用します。ポリシーおよび属性を含むすべてのグローバル アプリケーション資格に関する情報を表示するには、`--listGlobalApplicationEntitlements` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを使用します。

構文

```
lmvutil --listGlobalEntitlements
```

```
lmvutil --listGlobalApplicationEntitlements
```

使用上の注意

これらのコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャが初期化されない場合、またはコマンドがグローバル資格を一覧表示できない場合に、エラー メッセージを返します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --listGlobalEntitlements
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--listGlobalApplicationEntitlements
```

グローバル資格のプールの一覧表示

特定のグローバル資格に関連付けられたデスクトップ プールまたはアプリケーション プールを一覧表示するには、`--listAssociatedPools` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --listAssociatedPools --entitlementName name
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていないか、指定したグローバル資格が存在しない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

関連付けられたデスクトップ プールまたはアプリケーション プールを一覧表示するグローバル資格の名前を指定するには、`--entitlementName` オプションを使用します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --listAssociatedPools
--entitlementName "Agent Sales"
```

グローバル資格のユーザーまたはグループの一覧表示

特定のグローバル資格に関連するすべてのユーザーまたはグループを一覧表示するには、`--listEntitlements` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --listEntitlements {--userName domain\username | --groupName domain\groupname | --
entitlementName name}
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、指定したユーザー、グループ、または資格が存在しない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

グローバル資格の関連付けを一覧表示するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-16. グローバル資格の関連付けの一覧表示のオプション

オプション	説明
<code>--userName</code>	グローバル資格を一覧表示するユーザーの名前。フォーマット <code>domain\username</code> を使用します。このオプションを使用すると、指定したユーザーに関連付けられているグローバル資格がすべて一覧表示されます。
<code>--groupName</code>	グローバル資格を一覧表示するグループの名前。フォーマット <code>domain\groupname</code> を使用します。このオプションを使用すると、指定したグループに関連付けられているグローバル資格がすべて一覧表示されます。
<code>--entitlementName</code>	グローバル資格の名前。このオプションを使用すると、指定したグローバル資格のユーザーとグループがすべて一覧表示されます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --listEntitlements
--userName example\adminEast
```

ユーザーまたはグループのホーム サイトの一覧表示

特定のユーザー用に構成されたすべてのホーム サイトを一覧表示するには、`--showUserHomeSites` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。特定のグループ用に構成されたすべてのホーム サイトを一覧表示するには、`--showGroupHomeSites` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --showUserHomeSites --userName domain\username [--entitlementName name]
```

```
lmvutil --showGroupHomeSites --groupName domain\groupname [--entitlementName name]
```

使用上の注意

これらのコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、指定したユーザー、グループ、またはグローバル資格が存在しない場合にエラー メッセージを返します。

オプション

ユーザーまたはグループのホーム サイトを一覧表示するときには、これらのオプションを指定できます。

表 5-17. ユーザーまたはグループのホーム サイトを一覧表示するためのオプション

オプション	説明
<code>--userName</code>	ユーザーの名前。フォーマット <code>domain\username</code> を使用します。
<code>--groupName</code>	グループの名前。フォーマット <code>domain\groupname</code> を使用します。
<code>--entitlementName</code>	(オプション) グローバル資格の名前。このオプションは、ユーザーまたはグループのホーム サイトとグローバル資格の組み合わせを表示する場合に使用します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --showUserHomeSites
--userName example\adminEast
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --showGroupHomeSites
--groupName example\adminEastGroup
```

ユーザーの有効なホーム サイトの一覧表示

特定のユーザーの有効なホーム サイトを特定するには `--resolveUserHomeSite` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。ホーム サイトは、ユーザーとグループ、およびグローバル資格に割り当てることができるため、ユーザーに複数のホーム サイトを構成することができます。

構文

```
lmvutil --resolveUserHomeSite --entitlementName name --userName domain\username
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていないか、指定したグローバル資格またはユーザーが存在しない場合に、エラー メッセージを返します。

オプション

ユーザーの有効なホーム サイトを一覧表示するときには、これらのオプションを指定する必要があります。

表 5-18. ユーザーの有効なホーム サイトを一覧表示するためのオプション

オプション	説明
<code>--entitlementName</code>	グローバル資格の名前。このオプションでは、ユーザーとグローバル資格の組み合わせに対して有効なホーム サイトを特定できます。グローバル資格は、ユーザーに構成されているホーム サイトごとに異なる可能性があります。
<code>--userName</code>	一覧表示するホーム サイトを持つユーザーの名前。フォーマット <code>domain\username</code> を使用します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--resolveUserHomeSite --userName domainEast\adminEast
```

デスクトップ プールの専用割り当ての一覧表示

ユーザーとグローバル資格の組み合わせに対するデスクトップ プールの専用割り当てを一覧表示するには、`--listUserAssignments` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --listUserAssignments {--userName domain\username | --entitlementName name | --podName name |
--siteName name}
```

使用上の注意

このコマンドで生成されるデータは、Cloud Pod アーキテクチャのブローカー ソフトウェアで内部的に管理されます。

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、またはコマンドが指定されたユーザー、グローバル資格、ポッド、サイトを見つけることができなかった場合に、エラーを返します。

オプション

ユーザー割り当てを一覧表示するとき、以下のオプションの 1 つを指定する必要があります。

表 5-19. ユーザー割り当て一覧表示のオプション

オプション	説明
--userName	割り当てを一覧表示するユーザーの名前。フォーマット <i>domain\username</i> を使用します。このオプションを使用すると、指定したユーザーのグローバル資格、ポッド、およびサイト割り当てが一覧表示されます。
--entitlementName	グローバル資格の名前。このオプションを使用すると、指定したグローバル資格に割り当てられたユーザーがすべて一覧表示されます。
--podName	ポッドの名前。このオプションを使用すると、指定したポッドに割り当てられたユーザーがすべて一覧表示されます。
--siteName	サイトの名前。このオプションを使用すると、指定したサイトに割り当てられたユーザーがすべて一覧表示されます。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword
"*" --listUserAssignments --podName "East Pod 1"
```

Cloud Pod アーキテクチャ トポロジでのポッドまたはサイトの一覧表示

ポッド フェデレーション内のポッドを表示するには、--listPods オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。ポッド フェデレーション内のサイトを表示するには、--listSites オプションを指定して lmvutil コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --listPods
```

```
lmvutil --listSites
```

使用上の注意

これらのコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されない場合、またはコマンドがポッドまたはサイトを一覧表示できない場合に、エラー メッセージを返します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --listPods
```

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*" --listSites
```

SSL 証明書の管理

Cloud Pod アーキテクチャ環境で SSL 証明書を作成したり、保留中の SSL 証明書をアクティベーションしたりするには、lmvutil コマンドのオプションを使用します。

Cloud Pod アーキテクチャ機能は、双方向 SSL に署名証明書を使用して VIPA 通信チャネルの保護と検証を行います。これらの証明書はグローバル データ レイヤーに配布されます。Cloud Pod アーキテクチャ機能で、これらの証明書が 7 日ごとに置き換えられます。

特定の接続サーバインスタンスの証明書を変更するには、保留中の証明書を作成し、グローバル データ レイヤー レプリケーションプロセスがその証明書をすべての接続サーバ インスタンスに配布するまで待機してから、その証明書をアクティベーションします。

`lmvutil` コマンドの証明書オプションを使用するのは、証明書の信頼性が損われ、Horizon 管理者が 7 日以内に証明書を更新する場合に限定されます。これらのオプションが適用されるのは、オプションを実行する接続サーバ インスタンスだけです。すべての証明書を変更するには、接続サーバ インスタンスごとにオプションを実行する必要があります。

■ 保留中の証明書の作成

保留中の SSL 証明書を作成するには `--createPendingCertificate` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

■ 保留中の証明書のアクティベーション

保留中の証明書をアクティベーションするには `--activatePendingCertificate` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

保留中の証明書の作成

保留中の SSL 証明書を作成するには `--createPendingCertificate` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --createPendingCertificate
```

使用上の注意

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、またはコマンドが証明書を作成できない場合に、エラー メッセージを返します。

例

```
LMVUtil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--createPendingCertificate
```

保留中の証明書のアクティベーション

保留中の証明書をアクティベーションするには `--activatePendingCertificate` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行します。

構文

```
lmvutil --activatePendingCertificate
```

使用上の注意

このコマンドを使用するには、まず `--createPendingCertificate` オプションを指定して `lmvutil` コマンドを実行し、保留中の証明書を作成する必要があります。グローバル データ レイヤーのレプリケーション プロセスで証明書がすべての接続サーバ インスタンスに配布されてから、保留中の証明書をアクティベーションします。保留中の証明書をアクティベーションしてからすべての接続サーバ インスタンスに完全に複製する場合は、VIPA 接続障害によってブローカーの問題が発生する可能性があります。

このコマンドは、Cloud Pod アーキテクチャ機能が初期化されていない場合、またはコマンドが証明書をアクティベーションできない場合に、エラー メッセージを返します。

例

```
lmvutil --authAs adminEast --authDomain domainEast --authPassword "*"
--activatePendingCertificate
```